●負債整理組合事業施行細則ニ關スル件

經第五七九號内務部長通牒（昭和九年八月十四日）

市町村長　負債整理組合長宛

標記負債整理組合事業細則（例）左ノ通供參考候條各組合規約ノ定ムル處ニ依リ總會ニ諮リテ之ヲ定メ負債整理組合事業遂行上遺憾ナキヲ期セラレ度

追テ未タ負債整理組合設立ノナキ市町村ニシテ今後組合設立ノアリタル際ハ貴職ヨリ組合ニ對シ可然御示達相成度

負債整理組合事業施行細則（例）

第一章　總則

第一條　本組合ノ事業ハ法令、規約、本則ノ決議ニ依リ之ヲ施行スルモノトス

第二條　本組合ノ事務ハ組合長之ヲ處理ス

組合長必要ト認ムルトキハ他ノ理事ヲシテ事務ヲ分掌セシメ又ハ理事以外ノ組合員ヲシテ事務ヲ補佐セシムルコトヲ得

第三條　本組合ノ印鑑、書類、帳簿、其ノ他備品ハ組合長之ヲ保管ス

第二章　理事會

第四條　理事會ハ毎月一回以上之ヲ開クモノトス

理事會ハ止ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外理事全員出席シ出席者ノ過半數ヲ以テ議決ス

監事ハ理事會ニ出席シテ意見ヲ述ブルコトヲ得

理事會ノ議決ノ要旨ハ理事會會議錄ニ記載シ出席理事全員署名又ハ記名捺印スルモノトス

第五條　左ノ事項ハ理事會ノ議決ヲ經テ之ヲ施行スルモノトス

一　負債償還計畫及經濟更生計畫ノ樹立

二　總會ノ招集及其ノ議案

三　資金ノ貸付及借入

四　負債償還積立金管理

五　訴訟行爲

六　不動產ノ取得又ハ處分

七　其ノ他必要ト認ムル事項

第三章　監事會

第六條　監事ハ毎年　月　日及　月　日ノ兩度一定ノ場所ニ於テ監事會ヲ開キ定時ニ事務ノ監査ヲ爲スモノトス

訂（靜岡令二二八號）

第七條　監事ハ監査終ヲ設ケ監査ノ狀況ヲ記錄シ出席者二名以上之ニ署名又ハ記名捺印スルモノトス

第四章　事業

第八條　負債整理ヲ要スル組合員ハ負債整理申出調書ト共ニ誓約書ヲ提出スルモノトス

第九條　組合長前條ノ申出ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ債權者ニ通知シ（別記樣式第一號）負債、資產、家族及從業者、業務ノ經營、家計ノ狀況等ヲ詳細ニ調査シ經濟更生計畫及負債償還計畫案ヲ作成スルモノトス

組合長ハ理事又ハ組合員ヲ指定シテ前項ノ調査及計畫案ヲ作成セシムルコトヲ得

第十條　前條ノ計畫案ヲ作成シタルトキハ直ニ理事會ニ諮リ之ガ適否ヲ審議シ且組合長又ハ組合長ノ指定セル理事負債ノ條件緩和ノ協定斡旋ノ事務ニ從事スルコトヲ要ス

第十一條　負債ノ條件緩和ノ協定成立シタルトキハ理事會ニ諮リ負債償還計畫及經濟更生計畫ヲ決定シ當該組合員ニ其ノ旨通告シ計畫書ヲ送付スルモノトス

第十二條　前條ノ負債ノ條件緩和ニ關スル協定ニ付協定書ヲ作成シ組合ニ於テ保存シ置クコトヲ要ス

第十三條　負債ノ條件緩和ノ協定セザル場合ニ於テ當事者ガ市町村負債整理委員會ノ斡旋ヲ希望スルトキハ直ニ委員會ニ之ガ協定斡旋ノ手續ヲ爲スモノトス

第十四條　前條ニ依リ請求中ノ負債ニ付市町村負債整理委員會長ヨリ其ノ協定成立セル旨通知アリタルトキハ直ニ第十一條ノ手續ヲ爲スモノトス金錢債務臨時調停法ニ依リ申立タル負債ニ付調停成立シタル場合亦同シ

第十五條　負債整理事業資金貸付ノ決定ハ負債ノ條件緩和ニ關スル協定成立シ負債償還計畫及經濟更生計畫樹立シタル後理事會ニ於テ之ヲ爲ス但シ理事ニ對スル貸付ニ付テハ監事會ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第十六條　資金ノ貸付ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ爲スモノトス

一　證書ハ別記樣式第二號ニ依ラシムルコト

二　償還ハ（何）年賦以内ノ割賦償還ニ依ラシムルコト

三　確實ナル擔保物又ハ保證人ヲ徵シ且擔保物ハ時價ノ十分ノ八以内ニ於テ評價スルコト

四　貸付ノ爲ニ要シタル費用ハ債務者ニ負擔セシムルコト

第十七條　債務者ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ理事會ノ議決ヲ經テ貸付金ノ一部又ハ全部ノ卽時辨償ヲ求ムルコトヲ得

一　貸付金ヲ負債整理ノ目的以外ニ使用シタリト認ムルトキ

二　本組合ノ債權ニ對シ侵害スベキ行爲アリト認ムルトキ

三　第三者ヨリ假差押、假處分、强制執行又ハ破產ノ申立ヲ受ケ若ハ支拂ノ停止ヲ爲シタルトキ

四　組合ヨリ脫退若ハ除名セラレタルトキ

五　法令ニ依リ期限ノ利益ヲ失フトキ

六　年賦金又ハ利息ノ支拂ヲ一回タリトモ怠リタルトキ

七　其ノ他必要アリト認メタルトキ

第十八條　負債整理資金ノ貸付ヲ受ケタル組合員ハ之ガ償還ヲ目的トス

訂（靜岡令二二四號）

ル貯金ヲ毎月（又ハ何月及何回）毎期其ノ償還元利金以上ノ分割額ヲ貯蓄シ其ノ貯金通帳又ハ貯金證書ノ保管ヲ組合長ニ委託スルコトヲ要ス

第十九條　組合ハ組合員ノ委任ヲ受ケ負債ノ條件緩和ニ關スル法律行爲ノ代理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ理事會ノ定ムル手數料ヲ徵スルコトヲ得

第二十條　組合ハ負債整理進行中ノ組合員ノ負債償還計畫及經濟更生計畫ノ實行ヲ期スル爲常時其ノ指導督勵ヲ爲スモノトス

前項ノ指導督勵ノ方法ハ理事會ニ於テ之ヲ定ム

第二十一條　組合ハ組合員ノ負債償還資金ノ取立、管理及支拂ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　組合ハ負債整理ノ爲ニスル組合員ノ財產處分ニ關シ仲介ヲ爲シ又ハ組合員ノ生產物ノ販賣及產業竝ニ經濟用品ノ購買ノ世話ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル手數料其ノ他必要ナル事項ハ理事會ノ議決ヲ經テ組合長之ヲ定ム

第五章　事務處理

第二十三條　本組合ハ事務處理ノ爲左ノ帳簿ヲ備フルモノトス

一、日記帳　二、元帳　三、組合員名簿　四、役職員臺帳　五、預金臺帳　六、借入金臺帳　七、貸付金臺帳　八、負債償還積立金臺帳　九、所有土地物件臺帳　十、組合費徵收臺帳　十一、出資臺帳（組合員名簿ト併用スルコトヲ得）　十二、處務日誌　十三、文書受付發送簿　十四、消耗品受拂簿　十五、負債整理臺帳

第二十四條　本組合ノ書類ハ左ニ依リ分類整理スルモノトス

一、規約及諸規程　二、負債申出調書類　三、契約書類　四、負債償還計畫及經濟更生計畫ニ關スル書類　五、負債ノ條件緩和協定幹旋ニ關スル書類　六、財產目錄、貸借對照表、事業報告書剩餘金處分ニ關スル書類　七、總會及役員會ノ決議錄及關係書類　八、官廳ニ對スル申請及屆書又ハ報告ニ關スル書類　九、官廳ヨリノ命令、通達等ニ關スル書類　十、試算表　十一、監査ニ關スル書類　十二、登記ニ關スル書類　十三、組合員ノ加入脫退ニ關スル書類　十四、證憑書類

附　則

本則ハ決議ノ日ヨリ之ヲ實施ス

別記樣式第一號

負債整理申出受理通知書

今回組合員何某ヨリ負債整理ノ申出有之候處本組合ハ右申出ヲ受理シ整理ニ著手可致候條御了承相成度農村負債整理組合法施行規則第三條ニ依リ右及通知候也

昭和　年　月　日

郡市町村　番地

何責任何々負債整理組合

組合長理事　何　某

右債權者

何　某殿

別記樣式第二號

負債整理事業資金借用證書

一金　圓也

右金員負債整理事業資金トシテ正ニ借用致候ニ付下記事項ヲ誠實ニ履行スヘキコトヲ契約ス

一、本資金ハ昭和　年　月　日ヨリ昭和　年　月　日迄据置昭和　年　月　日ヨリ昭和　年　月　日迄ニ其ノ元利金ヲ均等償還スルモノトス

二、利率年四分　厘トス

三、年賦金ハ二回ニ分チ毎期金　圓　錢ト定メ毎年左ノ期日ニ之ヲ辨濟スルモノトス

第一期　月　日

第二期　月　日

四、据置期間中ノ利息ハ現金借受ノ翌日ヨリ日割ヲ以テ計算シ昭和　年　月　日迄ノ分ハ　月　日迄ニ爾後ノ分ハ六月毎ニ拂込ムモノトス

五、年賦金並据置期間中ノ利息ハ第三項ノ期日迄ニ債權者ノ指定ノ場所ニ拂込ムモノトス

六、債務者カ期限前本借用金ノ全部又ハ一部ヲ償還セントスルトキハ債權者ノ同意ヲ求ムルモノトス

七、本債務ノ辨濟ヲ怠リタルトキハ百圓ニ付日步　錢　厘ノ遲延利息ヲ支拂フモノトス

八、債務者カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ借入資金ノ一部又ハ全部チ卽時辨償スルモノトス

一、借入資金ヲ負債整理ノ目的以外ニ使用シタリト認メラレタルトキ

一、組合ノ債權ヲ侵害スベキ行爲アリト認メラレタルトキ

一、第三者ヨリ假差押、假處分、强制執行又ハ破產ノ申立ヲ受ケ若ハ支拂ノ停止ヲ爲シタルトキ

一、組合ヨリ脫退若ハ除名セラレタルトキ

一、法令ニ依リ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキ

一、年賦金又ハ利息ノ支拂ヲ一回タリトモ怠リタルトキ

一、其ノ他必要アリト認メラレタルトキ

九、債務者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ債權者ノ請求アリタルトキハ增擔保又ハ代リ擔保ヲ提供スルモノトス

一、擔保ノ價格著シク減少又ハ減少スルノ虞アルトキ

一、其ノ他債權者ニ於テ債權保全ノ爲必要アリト認メラレタルトキ

十、組合ニ於テ本債權ヲ本證書ト共ニ　市（町村）ニ擔保トシテ差入ルコトヲ承諾スルモノトス

十一、保證人ハ債務者ト連帶シテ本債務履行ノ責ニ任ス

十二、債務者本債務不履行ノ場合ハ抵當權實行ノ前後ヲ問ハズ債務者ノ他ノ財產ニ對シ催告ヲ要セズ卽時强制執行其ノ他ノ處分ヲ受クルモ異議ナキモノトス

十三、本契約ニ關スル訴訟ハ貴組合所在地裁判所ノ管轄ニ合意ス

十四、本債務ノ擔保トシテ末尾記載ノ不動產ニ順位一番ノ抵當權ヲ設定ス

昭和　年　月　日

郡　町村　番地

債務者　何　某印

訂（靜岡令二二四號）

郡　町村　番地
連帶保證人　何　某印

何責任何々負債整理組合
組合長理事何　某殿
擔保物件ノ表示
一、何　々
一、何　々
（注意）
一、用紙ハ强靱ナル美濃白紙又ハ罫紙ヲ用フルコト
二、書體ハ楷書トスルコト
三、數字ハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用フルコト
四、綴目ニ契印スルコト
五、墨書又ハ印刷ノコト
六、物的擔保ノミニテ個人保證ヲ徵セザル場合又ハ個人保證ノミニテ物的擔保ヲ徵セザル場合ハ本例ニ準ジ作成スルコト

●農村負債整理組合法ニ依ル登錄稅免除ニ關スル證明願ニ關スル件

經第五七八號內務部長通牒（昭和九年八月十四日）
市町村長　負債整理組合長宛

標記農村負債整理組合法ニ依ル登錄稅免除ニ關スル證明願ノ書式左ノ通相定メ候條可然御取計相成度

登錄稅免除ニ關スル證明願（其ノ一）

一、土地購入資金貸付額
二、土地ノ賣渡人
三、土地ノ買受人
四、土地ノ表示（別記ノ通）
右土地ハ農村負債整理組合法第十一條第二項ノ規定ニ依リ土地ノ購入ヲ爲スモノニシテ登錄稅法施行規則第五條ノ六第一號ニ該當スルモノニ付御證明相成度此段及御願候也

昭和　年　月　日

何郡何町村何大字
何責任何負債整理組合
理事　何　某印

靜岡縣知事何　某殿

別記

土地ノ表示
（注意）
證明願ハ二通トシ外ニ農村負債整理組合法施行規則第十條ノ規定ニ該當シ土地ノ購入ヲ爲スモノナルコトノ負債整理組合ノ證明書ヲ添附スルコト

登錄免除ニ關スル證明願（其ノ二）

一、負債整理事業資金貸付額
二、債權者

訂（靜岡令二二四號）

三、債務者
四、抵當物件（別記ノ通）
右債權ニ對スル抵當權ノ設定ハ登錄稅法施行規則第五條ノ六第二號ニ該當スルモノニ付御證明相成度此段及御願候也

昭和　年　月　日

何郡何町村何大字
何責任何負債整理組合
理事　何　某印

靜岡縣知事何　某殿

別記

抵當物件
（注意）
一、證明願ハ二通提出スルコト
二、市町村長ヨリ提出スル場合モ之ニ準ズルコト

登錄免除ニ關スル證明願（其ノ三）

一、土地賣渡人
二、土地買受人
三、土地ノ表示（別記ノ通）
右土地ニ對スル所有權ノ移轉ハ登錄稅法施行規則第五條ノ六第三號ニ該當スルモノニ付御證明相成度此段及御願候也

昭和　年　月　日

何郡何町村何大字
何責任何負債整理組合
理事　何　某印

靜岡縣知事何　某殿

別記

土地ノ表示
（注意）
一、證明願ニハ貸付證書ノ謄本、貸付金ノ現在額所有權移轉ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スルコト
二、證明願及添附書類ハ各二通提出ノコト
三、市町村長ヨリ提出スル場合モ之ニ準ズルコト

訂（靜岡令二二四號）

●負債整理事業資金特別融通損失補償契約例ニ關スル件

經第二九七號内務部長通牒（昭和九年三月三十一日）

市町村長宛

農村負債整理組合法ニ依リ市町村カ負債整理事業資金ノ特別融通ヲ爲ス場合同法第二十八條ニ依ル縣ト市町村トノ間ニ締結スル損失補償契約例別記ノ通其ノ筋ヨリ指示有之候ニ付御了知相成度

別記

負債整理事業資金特別融通損失補償契約例

靜岡縣（以下單ニ甲ト稱ス）ハ何々市町村（以下單ニ乙ト稱ス）ガ農村負債整理組合法第二十六條ノ規定ニ依リ負債整理事業資金特別融通ヲ爲シ之ニ因リ損失ヲ受クルトキハ乙ニ對シ其ノ損失ニ付補償スルコトヲ左記ノ條件ニ依リ乙ト契約ス

記

第一條　農村負債整理組合法第二十六條ノ規定ニ依ル負債整理事業資金特別融通ハ同法及同法ニ基ク命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ爲スコト

第二條　乙ハ負債整理事業資金特別融通ヲ爲シタル金額（元金、利息、遲延利息及主務大臣ノ承認ヲ受ケタル特別費用ヲ含ム）中回收不能額ヲ生ジタルトキハ甲ニ對シ損失補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルコト

前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ甲ハ農村負債整理組合法第二十八條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ政府ノ承認ヲ受ケ乙ニ對シ損失補償ヲ爲スベキコト

前項ニ依ル甲ノ乙ニ對スル損失補償金總額ハ融通元金總額ノ十分ノ三ヲ最高限度トスルコト但シ損失補償金ノ四分ノ一ニ相當スル金額ハ乙ノ負擔トス

農村負債整理組合法第二十六條ノ規定ニ依リ乙ノ融通スル元金ノ總額ハ

圓ヲ超エザルコト

第三條　乙ガ本契約ニ基キ甲ヨリ損失補償ヲ受ケタル後乙ニ於テ當該特別融通ノ債權又ハ之ガ擔保ヲ保有シ取立ヲ爲シ乙ノ收入ニ歸屬シタル金額アルトキハ乙ハ甲ト協議ノ上政府ノ承認ヲ受ケ其ノ金額ヲ以テ順次其ノ後ニ於ケル特別融通ニ因ル損失ノ補塡ニ充當スルコト猶不足額アルトキハ之ニ付甲ヨリ前條ノ補償金ヲ交付スルコト

前項ニ依リ損失ノ補塡ニ充當シ尙殘餘アルトキハ乙ハ甲ト乙トノ損失補償金額分擔ノ割合ニ應ジ之ヲ甲ニ納付スベキコト最後ノ補償ノ請求ヲ爲シタル後ニ於テ取立ニ因リ入金アリタル場合乙ニ於テ甲ト協議ノ上政府ノ承認ヲ受ケ其ノ金額ヲ以テ乙ノ損失額ガ前條第三項ノ制限金額ヲ超過シタル爲乙ガ補償ヲ受ケザリシ損失ノ補塡ニ充當シ尙殘餘アルトキ亦同シ

前項ニ依リ乙ガ甲ニ納付スベキ金額ノ納付ノ時期及方法ハ甲知事之ヲ定ムルコト

第四條　乙ガ本契約ニ基キ甲ヨリ損失補塡ヲ受ケタル後乙ニ於テ保有スル當該特別融通ノ債權又ハ之ガ擔保ニ付テハ乙其ノ權利保存行爲ヲ爲スベキコト但シ權利保存行爲ヲ要セズト認メラルル場合ニ其ノ事由ヲ具シ甲知事ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　乙ガ本契約ニ基キ甲ヨリ補償ヲ受クベキ損失ノ計算ニ算入スベキ特別費用ニ付主務大臣ノ承認ヲ受ケントスルトキハ申請前豫メ其ノ費途ニ關スル明細書ヲ添附シテ之ヲ甲知事ニ協議スベキコト

第六條　乙ガ本契約ニ基キ甲ヨリ損失補償ヲ受ケントスルトキハ請求書ニ損失ニ關スル計算書及必要ナル證據書類ヲ添附シテ甲知事ニ之ヲ提出スベキコト

第七條　第二條ニ依ル甲ノ損失補償金額ハ負債整理事業資金特別融通損失審査會ニ於テ損失及其ノ額ヲ決定シタルトキヨリ一年以内ニ之ヲ支拂フコト

第八條　第二條ノ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得ルコト

前項ノ國債證券ノ交付價格ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ルコト

第九條　乙ガ過失ニ因リテ受ケタル損失ニ付テハ甲ハ之ガ補償ノ責ニ任ゼザルコト

第十條　甲知事ハ必要アリト認ムルトキハ乙ニ對シ負債整理事業資金特別融通ノ債權ノ保全ニ付必要ナル行爲ヲ命ズルコトヲ得ルコト

第十一條　政府ノ命令アリタルトキ又ハ甲ニ於テ必要アリト認ムルトキハ乙ト協議ノ上本契約書ノ條項ヲ變更スルコトヲ得ルコト

第十二條　本契約書ノ條項ニ關シ疑議アルトキハ甲知事之ヲ決スルコト

第十三條　本契約書ハ參通ヲ作成シ甲及乙ニ於テ各一通ヲ所持シ一通ヲ政府ニ提出スルコト

●農村負債整理事業資金融通ニ關スル件

經濟二九八號内務部長通牒（昭和九年三月三十一日）

追加　昭和九年九月經濟第二九八號、一〇年九月產第一五五四號改正

標記ノ件ニ付別記ノ通農林次官及預金部長ヨリ及大藏次官ヨリ市町村長宛通牒有之候

別記一

八更第八二四三號

昭和八年十二月二十八日　農林次官　石黒忠篤印
大藏次官　黒田英雄印

靜岡縣知事殿

農村負債整理事業資金融通ニ關スル件

農村負債整理組合法ノ施行ニ伴ヒ市町村ヲシテ負債整理組合及同法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ニ對シ之ガ事業資金トシテ向後五ヶ年間ニ金貳億圓ノ特別融通ヲ爲サシムル豫定ニ有之候處市町村ノ右特別融通資金トシテ差當リ本年度ニ於テ預金部資金中ヨリ金貳千萬圓以内ヲ融通スルコトトシ別紙供給要項竝取扱要項ニ依リ取扱ヲ爲スコトト相成候條右御了知ノ上遺憾ナキヲ期セラレ度此段及通牒候也

追而本件資金貸縣割當ニ關シテハ負債整理事業資金特別融通損失補償金補給契約トノ關係モ有之別途通牒可致ニ付併而御了知相成度申添候

一、融通金額　二千萬圓

二、融通ノ形式　六大都市債ノ引受若ハ六大都市以外ノ市町村ニ對スル貸付ニ依ル

市町村ハ右ニ依リ得タル資金ヲ負債整理組合又ハ負債整理事業ヲ行フ法人ニ貸付クルモノトス

三、融通利率　預金部ノ融通利率ハ年四分五厘、市町村ハ利鞘ヲ徴スルコトヲ得ス組合及法人ノ貸付利率ハ年四分八厘以内トス

四、償還期限　二十ヶ年以内（五ヶ年以内ノ據置期間ヲ含ム）

五、本資金ノ預金部ニ對スル元利金支拂期日ハ八月一日、二月一日トス

農村負債整理資金取扱要項

一、地方長官ハ管下市町村ノ本資金ノ所要見込額ヲ調査ノ上每年三月、七月、十一月ノ各末日迄ニ別紙樣式一ニ依リ大藏大臣及農林大臣ニ報告スヘシ

二、地方長官ハ負債整理組合ノ設立ヲ認可シ又ハ信用組合其ノ他ノ法人ニ對シ負債整理事業ヲ行フコトヲ認可シタルトキハ之ヲ關係預金部支部長ニ通知スヘシ

三、市町村カ農村負債整理組合法第二十六條ノ規定ニ依リ負債整理組合（負債整理事業ヲ行フ法人ヲ含ム以下同シ）ニ對シ本資金ヲ以テ特別融通ヲ爲スノ必要アリト認ムル場合ニ於テ關係預金部支部出張所長ノ要求アリタルトキハ市町村長ハ當該市町村ノ財政狀況調書二通ヲ提出スヘシ

四、地方長官ハ農村負債整理組合法第二十九條ノ規定ニ依ル政府ノ損失補償金補給額限度ノ三分ノ二十ニ相當スル金額ノ範圍内ニ於テ各市町村ニ對スル本資金ノ配分額ヲ決定スヘシ但シ六大都市以外ノ市町村ニ對スル配分額ノ決定ニ付テハ豫メ左ノ書類ヲ預金部支部長ニ送付シ協議スルコトヲ要ス

訂（靜岡令二三八號）

(1)當該市町村ニ於ケル起債決議書寫

(2)當該市町村ノ本資金貸付計畫ヲ記載シタル書類（別紙樣式二）

(3)當該市町村ニ對スル既往ノ配分額ヲ記載シタル書類（別紙樣式三）

(4)貸付ヲ受クヘキ負債整理組合ノ負債整理事業計畫（昭和八年八月二十八日附八更第七、五四〇號農林省經濟更生部長通牒）

(5)負債調書（別紙樣式四）

地方長官市町村ニ對スル配分額ヲ決定シタルトキハ之ヲ當該市町村ニ内示スルト共ニ別紙樣式五ニ依リ大藏大臣、農林大臣及關係預金部支部長ニ報告スヘシ

五、市町村本資金ヲ借入レントスルトキハ預金部資金供給稟請書（別紙樣式六）ニ左ノ書類ヲ添付シ六大都市ニ在リテハ直接、六大都市以外ノ市町村ニ在リテハ預金部支部ヲ經由シ、大藏大臣（二通）及農林大臣ニ提出スヘシ

(1)起債決議書寫

(2)起債許可書寫

(3)負債整理組合ニ對スル貸付條件ヲ記載シタル書類（別紙樣式七）

(4)供給稟請ヲ爲シタル資金ヲ貸付ケントスル負債整理組合ニ關スル調書（別紙樣式八）

六、預金部普通地方資金融通規則第十六條、第十七條及第二十條乃至第二十八條ハ之ヲ農村負債整理資金ニ準用ス但シ第二十三條ニ依ル每月貸付報告書ハ別紙樣式九ニ依ル

七、前四號ノ規定ニ依リ預金部支部ニ提出スヘキ書類ハ預金部支部出張所ノ設アル區域ニ於テハ同出張所ヲ經由スヘシ

（別紙樣式一）

農村負債整理資金所要見込額報告書

（自何月何日至何月何日）

訂（靜岡令二三八號）

市町村名	同期間中ニ設立スル組合ノ本資金所要見込額	同期間中ニ於ケル資金供給稟請見込額
	圓	圓
合計		

(一)既往ニ設立セル總組合ノ農村負債整理資金所要額　何圓

(二)既往ニ命令アリタル損失補償金補給額限度ノ三分ノ二十ニ相當スル金額　何圓

(三)既往ニ供給決定ヲ受ケタル資金額　何圓

(四)同期間中ニ設立スル組合ノ本資金所要見込額ト(一)トノ合計額　何圓

(五)(三)ト同期間中ニ於ケル資金供給稟請見込額トノ合計額　何圓

右及報告候也

年　月　日

北海道廳長官
府縣知事　氏　名㊞

大藏大臣
農林大臣氏名宛

（註）

一、本報告書ハ名宛人毎ニ各別ニ調製スルコト

二、本報告書ハ毎年四月一日乃至七月三十一日、八月一日乃至十一月三十日、十二月一日乃至三月三十一日ノ各期間ニ於ケル見込額ヲ三月、七月、十一月各末日迄ニ報告スルコト

三、同期間中ニ於ケル資金供給稟請見込額欄ニハ同期間中新ニ供給稟請セントスルモノ及稟請中ニシテ決定未了ノモノヲ合算掲記スルコト

（別紙樣式二）

道　市
府　郡　町
縣　村

負債整理組合ニ對スル貸付計算書

組合名	要整理組合員ノ法第二條該當負債額	貸付豫定額	備考

（別紙樣式四）

負債調書

		圓	圓
合計			

（別紙樣式三）

何々市町村ニ對スル既往ノ配分額調書

第一次

一、配分決定年月日　何年何月何日

二、配分決定金額　何　圓

三、貸付豫定先　何々組合　何　圓

何々組合　何　圓

第二次

一、……

二、……

三、……

道　市
府　郡　町
縣　村

（何々負債整理組合）

訂〔靜岡令二三八號〕

區分 / 氏名	法第二條ニ該當セサル負債			法第二條該當ノ負債												資産見積金額	備考
	公租公課	政府資金	其ノ他	個人		銀行		産業組合		頼母子講		其ノ他		合計			
				件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額		
	圓	圓	圓		圓		圓		圓		圓		圓		圓	圓	
合計																	

（註）

一、本表ハ要整理組合員全員ニ付農村負債整理組合法施行規則第二條ニ依ル申出ニ依リ調製スルコト

二、自作農創設資金、農山漁村失業者救濟資金、災害復舊資金、養蠶應急資金及肥料資金等政府資金ニ依ル借入金ナルコト明瞭ナルモノハ法第二條ニ該當セサル負債ニ算入スルコト

三、公租公課ハ滯納分ニ付記載スルコト

四、金額ニ付テハ元金ノ外延滯利子ヲ左傍ニ之ヲ區分シ記載スルコト

五、既往ニ於テ農村負債整理資金ノ融通ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ金額ヲ備考欄ニ記載スルコト

（別紙樣式五）

農村負債整理資金配分決定報告書

市町村名	轉貸組合名	貸付豫定金額	備考

			圓
合計			
前回迄報告濟額			
累計			

右及報告候也

年　月　日

北海道廳長官
府縣知事　氏　名印

大藏大臣
農林大臣　氏　名宛
預金部支部長

（註）

一、名宛人毎ニ各別ニ調製スルコト

二、一市町村又ハ一組合ニ付二回以上配分額ヲ決定シタルトキハ既配分額ヲ備考欄ニ明記スルコト

（別紙様式六）

預金部資金供給稟請書

一、資金名　農村負債整理資金

一、金額　何圓

一、道府縣トノ特別融通損失補償契約ニ於ケル貸付限度　何圓

一、起債許可年月日及番號　何年何月何日第何號

一、資金ノ用途　左ノ通リ轉貸

何々負債整理組合　何圓

何々負債整理組合　何圓

一、償還方法　年賦

一、期限　何年二月一日迄据八月一日迄ニ又ハ八月一日迄据何年二月償還

右供給相成度此段及稟請候也

年　月　日

訂〔靜岡令二三八號〕

資金供給稟請者　道府縣　郡　市町村　長　氏　名印

大藏大臣
農林大臣　氏名宛

（註）

一、名宛人毎ニ各別ニ調製スルコト

（別紙様式七）

貸付條件調書

一、貸付先　何々負債整理組合

道府縣　郡　市町村

一、貸付金額　何圓

一、期限　何年何月迄据置何年何月迄ニ回收

一、元利金ノ償還ヲ受クヘキ期日

何月何日

何月何日

（註）

一、本表ハ市町村ニ於テ負債整理組合ニ對シ今回供給稟請ヲ爲シタル資金ヲ貸付ケントスル條件ヲ記載スルコト

一、本表ハ轉貸先ノ異ナル毎ニ各別ニ調製スルコト

（何年何月何日調）

（別紙様式八）

負債整理組合ニ關スル調書

一、設立年月日　何年何月何日

二、組合費ノ納入狀況

道府縣　郡　市町村　何々負債整理組合

本年度組合費			組合費累計		
總額	現在迄ニ納入スヘキ額	納入額	總額	納入額	
圓	圓	圓	圓	圓	

（註）

第十編　産業　第七章　産業組合、負債整理組合

訂〔靜岡令二三八號〕

一、本年度組合費欄中總額欄ニハ總會ニ於テ決議シタル組合費總額ニ付記載スルコト

二、現在迄ニ納入スヘキ額ノ欄ニハ總會ノ決議ニ依リ本供給禀請書ヲ提出スル時迄ニ納入スヘキ額ヲ記載スルコト

三、組合費累計欄中總額欄ニハ既往年度ノ組合費ト本年度組合費ニシテ供給禀請書ヲ提出スル時迄ニ納入スヘキ額トノ合計ヲ記載スルコト

三、出資拂込狀況

出資口數	出資總額	前年度末現在拂込濟額	本年度內拂込額	本年度內拂戻額	現在拂込濟額	保證金額
口	圓	圓	圓	圓	圓	圓

四、各種積立金積立狀況

(イ)　負債償還積立金

前年度末現在	本年度處分		
現在迄ニ釀出スヘキ額	釀出額	本年度處分	現在額
圓	圓	圓	圓

(ロ)　損失補塡積立金

前年度末現在額	本年度積立額	本年度處分額	現在額
圓	圓	圓	圓

(註)

一、前年度末現在額欄ニハ前年度ノ決算ニヨリ積立又ハ處分ヲ爲サヽルル金額ヲ記載スルコト

二、本年度積立及本年度處分欄ニハ前年度末決算ニ依リ積立又ハ處分ヲ爲シタル金額ヲ記載スルコト

五、借入金ノ償還狀況

訂(靜岡令二四一號)

借入先	借入年月日	當初借入額	現在額	利率	期間	元利延滯額
		圓	圓			圓

六、貸付金ノ回收狀況調

(何々負債整理組合)

貸付金額	貸付人員	回收濟額				延滯額				備考
		元金	利子	元金額	人員	利子額	人員			
圓	人	圓	圓	圓	人	圓	人			

(註)

一、本表ハ現在貸付金ノ存スル組合ニ限リ調製スルコト

二、貸付金額及貸付人員ノ欄ニハ貸付當初ノ金額人員ヲ記載スルコト

三、回收濟額及延滯額ノ欄ハ供給禀請書提出ノ時現在ニ依リ記載スルコト

七、借入最高限度

昭和何年度中ニ於ケル借入最高限度

何　圓

(總會決議ノ年月日　何年何月何日)

八、一組合員ニ對スル貸付最高限度

何　圓

(總會決議ノ年月日　何年何月何日)

(イ)農村負債整理組合法施行規則第二十二條ニ依ルモノ

(ロ)負債整理事業資金特別融通及損失補償ニ關スル規程第二條ニ依ルモノ

九、負債整理方法

(イ)組合員ノ經濟更生計畫及負債償還計畫ノ概要

(附屬書一及二ノ表ヲ添附スルコト)

訂(靜岡令二三八號)

（ロ）負債條件緩和ノ狀況　（附屬書三）

（ハ）土地購入ニ關スル所要資金調　（附屬書四）

（附屬書一）

組合員ノ經濟更生計畫ノ概要

氏名	計畫期間	計畫			現狀ニ於ケル過不足
		收入	支出	差引殘額	
		圓	圓	圓	圓

（註）

一、本表ハ現金收支ニ付記載スルコト

二、計畫欄ハ經濟更生計畫年度中ノ平均額ニ依リ記載スルコト

三、現狀ニ於ケル過不足欄ニハ本計畫樹立前一ヶ年間ノ收支過不足額ヲ記載スルコト

四、負債償還元利金ハ支出ノ欄ニ内書傍書スルコト

（附屬書二）

組合員ノ負債償還計畫

氏名 ＼ 區分	償還期限		償還所要額		償還財源	
	預金部資金ニ依ル借入金	同上以外ノ借入金	預金部資金ニ依ル借入金	同上以外ノ借入金	不要財産處分	收支剩餘金
			圓	圓	圓	圓

（註）

訂〔靜岡令二三八號〕

一、償還所要額ハ各債務分償還最終期迄ノ元利合計ヲ記載スルコト

二、收支剩餘金ハ債務ノ最終償還年度迄ノ合計ヲ記載スルコト

（附屬書三）

負債條件緩和ノ狀況

氏名 ＼ 區分	法第二條ノ負債		内譯							額内金預入ニ金部資見込ル	摘要
			條件緩和ヲ爲ササル負債		條件緩和ヲ爲シタル負債						
	件數	金額	件數	金額	件數	金當初額	條件緩和後ノ金額	金額以外ノ緩和ノ狀況	協定成立時期		
		圓		圓		圓	圓			圓	
合計											

備考

（註）

一、本表ハ今回供給票請ヲ爲シタル資金ニ依リ負債ヲ整理セシメントスル要整理組合員ニ付調製スルコト

二、自作農創設資金、農山漁村失業者救濟資金、災害復舊資金、養蠶應急資金及肥料資金等政府資金ニ依ル借入金ナルコト明瞭ナルモノハ法第二條ノ負債ヨリ除外スルコト

三、條件緩和後ノ金額ノ欄ニハ預金部資金ヲ内入セサル以前ノ金額ヲ記載スルコト

四、條件緩和ノ協定斡旋中ノ負債ハ見込ニ依リ夫々緩和ヲ爲シタル負債又ハ爲ササル負債ノ欄ニ合算記入シ内書傍書スルコト

五、延滯利子ハ負債金額中ニ合算スルコト

六、摘要欄ニハ條件緩和ヲ爲ササルモノニ付其ノ理由ヲ記載スルコト

（附屬書四）

土地購入ニ關スル所要資金調

訂〔靜岡令二三八號〕

別記二

昭和九年二月一日

頒布第五四號

農林省經濟更生部長
頒布ス

農林省
經濟更生部

福岡縣知事殿

農村負債整理事業ニ關シテハ昭和八年四月二十八日附(八更第二四)
三註ジ以テ大藏農林大臣通リ通牒相成候處林大臣ヨリ通牒中農村負債整理組合
第七章　産業組合負債整理組合
第十編　産業

名稱	所在地	貸付年月日	貸付金額	償還方法及期限	貸付利率	元利金支拂日期	備考
貸付先							
						月日	
				償還期限			
				年 月 日			
				據置期限			
				年 月 日			
				隨年賦			
			圓				
合計							
貸付殘額							
本會ノ借入額ヨリ							
貸付金額ノ							

(註)
一、貸付殘額ニハ本會ノ借入額ト貸出濟額トノ差額ヲ掲ケルコト
二、備考欄ニハ本會ノ貸付カ負債整理ノ爲ナリヤ土地購入ノ爲ナリヤヲ明記スルコト從テ一口ノ貸付ニシテ右兩用途ヲ含ムトキハ其旨ヲ記載スルコト
三、本報告ハ各究人毎ニ作成スルヲ要ス
四、本報告ハ各府縣ニ於テ別ニ調製シ且六大都市以外ノ市町村カ六大都市ニ在ル本會ノ支部ヲ經由スルモノハ六大臣ニ提出スルコト
五、貸金ノ元利金ハ本會ノ定款第八條第三號ニ依リ本會ノ配分額ヲ決定スル爲メ總會ニ協議ノ際ハ市町村ニ於ケル轉貸先毎ニ貸付額ヲ決定メラレタル配分額ヲ記載スルコト
六、本報告ハ各府縣ニ於テ別ニ調製シ且六大都市以外ノ市町村カ六大都市ニ在ル本會ノ支部ヲ經由スルモノハ六大臣ニ提出スルコト
七、貸金ノ元利金ハ本會ノ定款第八條第三號ニ依リ本會ノ配分額ヲ決定スル爲メ總會ニ協議ノ際ハ市町村ニ於ケル轉貸先毎ニ貸付額ヲ決定メラレタル配分額ヲ記載スルコト
八、本報告ハ各府縣ニ於テ別ニ調製シ且六大都市以外ノ市町村カ六大都市ニ在ル本會ノ支部ヲ經由スルモノハ六大臣ニ提出スルコト
九、貸金ノ元利金ハ本會ノ定款第八條第三號ニ依リ本會ノ配分額ヲ決定スル爲メ總會ニ協議ノ際ハ市町村ニ於ケル轉貸先毎ニ貸付額ヲ決定メラレタル配分額ヲ記載スルコト
十、本報告ハ各府縣ニ於テ別ニ調製シ且六大都市以外ノ市町村カ六大都市ニ在ル本會ノ支部ヲ經由スルモノハ六大臣ニ提出スルコト

訂正昭和九年二月一日頒布第五四號

農林省經濟更生部長
頒布ス

農林省
經濟更生部

福岡縣知事殿

農村負債整理事業ニ關シテハ昭和八年四月二十八日附(八更第二四)
三註ジ以テ大藏農林大臣通リ通牒相成候處林大臣ヨリ通牒中農村負債整理組合
第七章　産業組合負債整理組合
第十編　産業

名稱	所在地	貸付年月日	貸付金額	償還方法及期限	貸付利率	元利金支拂日期	備考
貸付先							
						月日	
				償還期限			
				年 月 日			
				據置期限			
				年 月 日			
				隨年賦			
			圓				
合計							
貸付殘額							
本會ノ借入額ヨリ							
貸付金額ノ							

(註)
一、貸付殘額ニハ本會ノ借入額ト貸出濟額トノ差額ヲ掲ケルコト
二、備考欄ニハ本會ノ貸付カ負債整理ノ爲ナリヤ土地購入ノ爲ナリヤヲ明記スルコト從テ一口ノ貸付ニシテ右兩用途ヲ含ムトキハ其旨ヲ記載スルコト
三、本報告ハ各究人毎ニ作成スルヲ要ス
四、本報告ハ各府縣ニ於テ別ニ調製シ且六大都市以外ノ市町村カ六大都市ニ在ル本會ノ支部ヲ經由スルモノハ六大臣ニ提出スルコト
五、貸金ノ元利金ハ本會ノ定款第八條第三號ニ依リ本會ノ配分額ヲ決定スル爲メ總會ニ協議ノ際ハ市町村ニ於ケル轉貸先毎ニ貸付額ヲ決定メラレタル配分額ヲ記載スルコト
六、本報告ハ各府縣ニ於テ別ニ調製シ且六大都市以外ノ市町村カ六大都市ニ在ル本會ノ支部ヲ經由スルモノハ六大臣ニ提出スルコト
七、貸金ノ元利金ハ本會ノ定款第八條第三號ニ依リ本會ノ配分額ヲ決定スル爲メ總會ニ協議ノ際ハ市町村ニ於ケル轉貸先毎ニ貸付額ヲ決定メラレタル配分額ヲ記載スルコト
八、本報告ハ各府縣ニ於テ別ニ調製シ且六大都市以外ノ市町村カ六大都市ニ在ル本會ノ支部ヲ經由スルモノハ六大臣ニ提出スルコト
九、貸金ノ元利金ハ本會ノ定款第八條第三號ニ依リ本會ノ配分額ヲ決定スル爲メ總會ニ協議ノ際ハ市町村ニ於ケル轉貸先毎ニ貸付額ヲ決定メラレタル配分額ヲ記載スルコト
十、本報告ハ各府縣ニ於テ別ニ調製シ且六大都市以外ノ市町村カ六大都市ニ在ル本會ノ支部ヲ經由スルモノハ六大臣ニ提出スルコト

別記二

昭和九年二月一日

頒布第五四號

農林省經濟更生部長
頒布ス

農林省
經濟更生部

福岡縣知事殿

農村負債整理事業ニ關シテハ昭和八年四月二十八日附(八更第二四)
三註ジ以テ大藏農林大臣通リ通牒相成候處林大臣ヨリ通牒中農村負債整理組合
第七章　産業組合負債整理組合
第十編　産業

名稱	所在地	貸付年月日	貸付金額	償還方法及期限	貸付利率	元利金支拂日期	備考
貸付先							
						月日	
				償還期限			
				年 月 日			
				據置期限			
				年 月 日			
				隨年賦			
			圓				
合計							
貸付殘額							
本會ノ借入額ヨリ							
貸付金額ノ							

(註)
一、貸付殘額ニハ本會ノ借入額ト貸出濟額トノ差額ヲ掲ケルコト
二、備考欄ニハ本會ノ貸付カ負債整理ノ爲ナリヤ土地購入ノ爲ナリヤヲ明記スルコト從テ一口ノ貸付ニシテ右兩用途ヲ含ムトキハ其旨ヲ記載スルコト
三、本報告ハ各究人毎ニ作成スルヲ要ス
四、本報告ハ各府縣ニ於テ別ニ調製シ且六大都市以外ノ市町村カ六大都市ニ在ル本會ノ支部ヲ經由スルモノハ六大臣ニ提出スルコト
五、貸金ノ元利金ハ本會ノ定款第八條第三號ニ依リ本會ノ配分額ヲ決定スル爲メ總會ニ協議ノ際ハ市町村ニ於ケル轉貸先毎ニ貸付額ヲ決定メラレタル配分額ヲ記載スルコト
六、本報告ハ各府縣ニ於テ別ニ調製シ且六大都市以外ノ市町村カ六大都市ニ在ル本會ノ支部ヲ經由スルモノハ六大臣ニ提出スルコト
七、貸金ノ元利金ハ本會ノ定款第八條第三號ニ依リ本會ノ配分額ヲ決定スル爲メ總會ニ協議ノ際ハ市町村ニ於ケル轉貸先毎ニ貸付額ヲ決定メラレタル配分額ヲ記載スルコト
八、本報告ハ各府縣ニ於テ別ニ調製シ且六大都市以外ノ市町村カ六大都市ニ在ル本會ノ支部ヲ經由スルモノハ六大臣ニ提出スルコト
九、貸金ノ元利金ハ本會ノ定款第八條第三號ニ依リ本會ノ配分額ヲ決定スル爲メ總會ニ協議ノ際ハ市町村ニ於ケル轉貸先毎ニ貸付額ヲ決定メラレタル配分額ヲ記載スルコト
十、本報告ハ各府縣ニ於テ別ニ調製シ且六大都市以外ノ市町村カ六大都市ニ在ル本會ノ支部ヲ經由スルモノハ六大臣ニ提出スルコト

別紙樣式九

(昭和　年　月分)

農林大臣
地方長官
殿

農林省經濟更生部長

農村負債整理資金貸付報告書

農村負債整理資金貸付報告書別紙ノ通報告候也

(註)
一、氏名ノ欄ニハ土地購入者ノ氏名ヲ記載スルコト
二、摘要欄ニハ土地購入先毎ニ購入價額ヲ明記スルコト

氏名	(イ)田畑	(ロ)宅地	摘要
所有田畑	該		
見積有價田畑	圓		
購入田畑	該		
所要資金	圓		
見積有價宅地		圓	
購入宅地		坪	
宅地購入價額		圓	
所要資金		圓	

確立並負債條件緩和ニ關スル協定ノ成立ノ見込ミ確實トナリタル後トセシムル樣市町村ニ對シ御指示相成度此段及通牒候也

●農村負債整理ニ關スル誓約、申出調書、負債償還計畫、經濟更生計畫及負債條件ノ緩和協定書ニ關スル件

經第五二五號內務部長通牒（昭和九年七月五日）

市町村長　市町村負債整理委員會長
負債整理組合長宛

農村負債整理組合法施行規則第一條第二條及第四條ニ定ムル誓約、負債整理申出調書及負債償還計畫、經濟更生計畫並負債ノ條件緩和ノ斡旋、協定書ノ各例別記ノ通供參考候條各地實情ヲ斟酌シ可然御取計相成度尙負債整理事業資金配分決定通知アリタル町村ニ於テハ速ニ之カ起債許可禀請ノ手續ヲ採ルト共ニ負債整理組合ノ事業ニ付テモ可及的速ニ準備相成度

追テ曩ニ設立認可アリタル組合ニ對シテハ本件中相當指示セルモノ有之候得共事業執行ノ實情ヲ觀ルニ多少簡略ニ過ギ要領ヲ得ルコト困難ナル向相當有之候條今回更メテ右指示スル次第ニ付御了知相成度尙本件ニ付左記御留意相成度

記

一、誓約書
本誓約書ハ組合員組合ニ對シ負債整理ノ申出ヲ爲サントスル場合ニ提出スルモノトス

二、負債整理申出調書
本調書ハ組合員前項ノ申出ヲナス場合ニ調製提出スルコト

三、經濟更生計畫

四、負債償還計畫
右兩計畫ハ組合ニ於テ負債整理ノ申出ヲ受理シタルトキ組合員ノ資產、業務ノ經營及家計ノ狀況竝負債ノ性質等各般ノ事情ヲ考慮シテ樹立スルモノトス

五、協定書
本協定書ハ負債ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ニ關シ爾後ニ於ケル紛議ノ發生ヲ防止スル爲之ヲ作成保管スルモノトス

六、經濟更生及負債償還各計畫ハ將來必要ニ應ジ相當變更ヲ要スベキ場合有之又紙面ノ都合ニ依リ便宜五、六年間ニ止メタルモ原則トシテ向後約二十ヶ年ノ範圍內ノ期間ヲ目標トシ計畫樹立スベキモノナルヲ以テ適當ニ取計フコト

備考
農村負債整理組合法施行規則

第一條　負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人（以下單ニ負債整理事業ヲ行フ法人ト稱ス）ノ組合員負債整理ノ申出ヲ爲サントスル場合ニ於テハ其ノ組合又ハ法人ニ對シ誠實ニ負債ノ償還及經濟更生ニ努メ以テ負債整理ヲ爲スベキ旨ノ誓約ヲ爲スベシ

第二條　組合員前條ノ場合ニ於テハ負債整理組合又ハ負債整理事業ヲ行フ法人ニ對シ其ノ資產、業務ノ經營及家計ノ狀況ヲ明ニシ債務每ニ其ノ債權者、發生年月日、金額、利率、償還期限、償還方法、辨濟狀況、債務發生ノ事情等ヲ具シ其ノ負擔スル一切ノ債務（公法上ノ債務ヲ含ム）ヲ申出ヅベシ

第三條　負債整理組合又ハ負債整理事業ヲ行フ法人負債整理ノ申出ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ債權者（公法上ノ債權者ヲ除ク）ニ通知スベシ

第四條　負債整理組合又ハ負債整理事業ヲ行フ法人負債整理ノ申出ヲ受ケタルトキハ組合員ノ資產負債、業務ノ經營及家計ノ狀況竝ニ負債ノ性質等各般ノ事情ヲ考慮シ遲滯ナク其ノ負債償還計畫及經濟更生計畫ヲ樹立シ農村負債整理組合法第三條ノ斡旋ヲ爲スベシ

別記一

誓約（例）

今般負債整理組合法ニ依リ負債整理相願度自今拙者ハ勿論家族共ニ貴組合ノ御指示ニ依リ左記事項ヲ堅ク相守リ負債ノ償還及經濟更生ニ努力可致此段誓約候也

別記二

負債整理申出調書（例）

昭和　年　月　日　　誓約者組合員　郡　村　番地
同人　妻
同人　相續人

組合長理事　殿

記

一、組合規約ヲ遵守スルコト

二、負債償還計畫及經濟更生計畫ニ基キ實行スベキ事項ハ誠實ニ之ヲ遵守シ總テ償還ニ就テハ期日ヲ違ヘザルコト

三、組合ノ承認ヲ得ルニ非ザレバ親戚其ノ他何人ノ依賴ト雖モ債務ノ保證ヲナサザルコト

四、組合ノ承認ヲ得ルニ非ザレバ新ナル借入金ヲナサザルコト

五、產業及經濟用品ノ購入生產物ノ販賣等ハ組合ノ指示ニ依リ之ヲ爲スコト

六、收支ハ必ズ記帳シ每月役員ノ閱覽請求ニ應ズルコト

七、事業及家計上ニ關スル主要事項ハ組合ニ協議スルコト

八、一家協力業務ニ勉勵スルコト

申出人
住所
職業　氏　名㊞

訂（靜岡令二二二號）

一、負債ノ現況

債權者住所氏名	借入年月日	當初借入額	現在負債額	利率	償還期限同方法	擔保物件ノ數量保證人住所氏名	辨濟狀況債務發生原因	備考
		圓	圓					
計								
摘要								

注意　一、負債ハ本法ニ依リ整理シ得ル債務ハ勿論公法上ノ債務デモ又何時發生ノ債務デモ總テ債務ニ付申出ルコト
二、保證債務ニシテ未ダ現實ニ支拂義務ノ發生セザルモノニ付テモ其ノ內容ヲ明カニシテ「本表摘要欄」ニ申出ヅルコト

二、資産ノ狀況

(一)　土地及建物、農具、動植物等

種目	數量（自己所有權ニ屬スルモノ）	時價	土地建物等貸借狀況 所有	借入	貸付	備考
土 田 一毛作田	段	圓	段	段	段	
土 田 二毛作田						
土 田 小計						
土 畑 普通畑						
土 畑 桑園						
土 畑 果樹園						
土 畑 茶園						
土 畑 小計						

訂〔靜岡令二二二號〕

種目	數量	時價	土地建物等貸借狀況 所有	借入	貸付	備考
地 宅地	坪	圓	坪	坪	坪	
地 山林	段		段	段	段	
地 原野	段		段	段	段	
計						
建物動物植物 住宅	坪		坪	坪	坪	
建物動物植物 納屋						
建物動物植物 農具						
建物動物植物 植物						
建物動物植物 計						
總計						

訂〔靜岡令二二二號〕

(二)　現金、貯金、貸金、債券、株券、生命保險ノ初回カラノ掛金、販賣未收入金、未收入無盡講掛金等

種目	金額	備考
	圓	
計		

(三)　家族竝從業員

經營主トノ續柄	氏名	年齢	勞働能力	主トシテ擔當スル仕事	農業勞働豫定日數	兼業其他ニ從事スル豫定日數	備考

（四）業務ノ經營

種目	段別又ハ數量	生産高 數量	生産高 金額	販賣高 數量	販賣高 金額	備考
農産收入						
米						
麥						
計						
養蠶收入						
春蠶	掃立枚數					
計						
林畜水産收入						
計						
加工收入						
計						

訂〔靜岡令二二二號〕

其ノ他ノ收入	總計
計	

（五）家計ノ狀況

（イ）收入之部

種目	金額	備考
農事之部		
玄米	圓	
雜穀		
蔬菜		
果樹		
繭		
畜産品		
林産物		
加工品		
其ノ他雜收入		
計		

（ロ）支出之部

種目	金額	備考
農事之部		
建物費	圓	
農具費		
肥料費		
飼料費		
種苗費		
勞賃		
公租公課		
其ノ他雜費		
計		

訂〔靜岡令二二二號〕

合計	家事其ノ他ノ部 計	農事之部 計	種目	現況 数量	現況 価格	計畫目標實施要項	
							圓 年度
							圓 年度
							圓 年度
							圓 年度
							圓 年度

訂〔靜岡令二二二號〕

別記三

第一表　　經濟更生計畫（例）

收入

合計	家事ノ部 計	家事ノ部 小作料收入	家事ノ部 賃銀收入	家事ノ部 俸給年金	家事ノ部 株式配當金	家事ノ部 貯金貸金利子	家事ノ部 出稼收入	家事ノ部 其ノ他雜收入	家事ノ部 兼業收入

合計	家事ノ部 計	家事ノ部 飲食費	家事ノ部 光熱費	家事ノ部 被服費	家事ノ部 交際費	家事ノ部 其ノ衛生費	家事ノ部 保險ノ教育費	家事ノ部 他ノ嗜好品費	家事ノ部 他ノ諸道具費	家事ノ部 他ノ其ノ他雜費	家事ノ部 兼業支出

右負債整理ノ申出アリタルニ依リ玆ニ調書ヲ受理ス

年　月　日

何責任何負債整理組合

理事　何　某㊞

組合員

負債整理申出

年　月　日

訂〔靜岡令二二三號〕

支出

種目	現況 數量	現況 價格	計畫目標實施要項					
農事之部 建物費			年度	年度	年度	年度	年度	年度
農具費			圓	圓	圓	圓	圓	圓
肥料費								
飼料費								
種苗費								
勞賃								
公租公課								
計								
家事之部 飲食費								
光熱費								
被服費								
交際費								
保險費								
衛生費								
教育費								
嗜好品費								
諸道具費								
計								
合計								
收支差引（增減）								

訂（靜岡令二二二號）

注意　本收入支出經濟更生計畫ハ收入、支出ノ種目總テヲ計上シテ相當餘剩ノ生ズル樣計畫スベキモノナルヲ以テ本書作成ノ場合ハ相當紙面ニ餘白ヲ存スルコト

第二表　財產（動產、不動產）整理計畫

動產、不動產ノ種類	數量	金額	處分方法	動產ノ現況 不動產ノ所在地	備考

第三表　償還財源調

	年度	年度	年度	年度	年度	摘要
經濟更生計畫ニヨルモノ	圓	圓	圓	圓	圓	
動產不動產整理計畫ニヨルモノ						
合計						
備考						

訂（靜岡令二二二號）

別記四

負債償還計畫（例）

第一表

種目＼年次	年度	年度	年度	年度	年度
負債總額					

組合員
負債整理申出　　年　月　日

第二表

緩和金額	負債元金	負債還財源額	備考
負債還総額	負債還利金合計		

注意　一、本表ハ第二表ノ借入先別一件毎ニ作製セルモノヲ夫々基礎合計シテ記載スルコト（従テ本計畫書作成ノ場合ニハ第一表、第二表ハ各別紙トスルハ勿論第二表ハ特ニ相當多數部數ヲ作成準備ヲ要ス）

二、償還負債總額ハ負債總額ヨリ緩和金額ヲ差引キタル額ニシテ其ノ償還ハ負債償還財源額ニ對應スルコト

三、本計畫ハ負債整理事業資金トシテ組合ヨリ借入タル金額ヲモ含メ計畫スベキコト

一、負債ノ現狀

借入年月日	當初借入額	現在負債額	利率	償還期限	擔保又ハ保證人	負債原因（詳細ニ記載スルコト）
	圓	圓	同方法			

債務者　氏　名
債權者　住所　氏　名

訂（靜岡令二二二號）

二、負債緩和ノ要領

現在負債額	緩和ヲ必要トスル金額	償還スベキ負債額	利率	償還期限	償還方法	償還財源	備考
圓	圓	圓	同方法				

三、負債償還計畫

種別	償還スベキ負債元金	負債元金	償還利息	合計	償還期日	備考
年度	圓					
年度		圓				
年度				圓		
年度						
年度						
年度						

訂（靜岡令二二二號）

注意

一、本第二表ハ借入先別ニ各一件毎ニ作成スルコト

二、負債ノ現狀ニ付テハ現在負債ノ實際ニ付キ記載シ左ニ注意スルコト

イ、現在負債額ハ未拂利息其ノ他一切ノ負債額ヲ記載スルコト

ロ、各借入先別ノ現在負債額ノ合計額ハ第一表負債總額ト一致スヘキコト

三、負債緩和ノ要項ニ付テハ負債ノ條件緩和ノ協定ノ幹旋目標ヲ記載シ左ニ注意スルコト

イ、緩和ヲ必要トスル金額トハ現在負債額ヨリ減額ノ協定ヲ爲サントスル金額ヲ記入スルコト
ロ、各借入先別ノ緩和ヲ必要トスル金額ノ合計額ハ第一表ノ緩和金額ト一致スヘキコト
ハ、各借入先別ノ償還スヘキ負債額ノ合計額ハ第一表ノ償還スヘキ負債總額ト一致スヘキコト
四、負債償還計畫ハ負債ノ條件緩和ノ協定ノ斡旋目標ニ依ル計算ヲ記載シ左ニ注意スルコト
イ、借入先別ノ負債元金ノ合計額ハ第一表償還スヘキ負債總額ト一致スヘキコト
ロ、借入先別負債償還金ノ合計額ハ第一表負債償還金ト一致スヘキコト
五、保證債務ニシテ未タ現實ニ支拂義務發生セサルモノニ付テモ將來負債償還計畫實行ニ關聯ヲ來タササル樣豫メ適當ナル方法ヲ講スル要アリ

別記五

協定書（例）

右　年　月　日申出ノ負債整理協定斡旋ノ件ニ付左記之通リ負債ノ條件緩和ニ關スル協定ノ斡旋ヲ爲シタリ

記

一、整理前ノ負債ノ狀況

借入年月日	當初借入金額	現在負債金額	利率	延滯利息	償還期限	擔保物件	償還方法	擔保證人	備考

二、整理ノ負債ノ狀況

申出人　住所　職業　氏名
相手方　住所　職業　氏名

訂〔靜岡令二二二號〕

負債元金	利率	償還方法	償還期限	擔保物件	擔保證人	備考
圓						

三、協定成立ノ年月日
四、其他必要ナル事項
右之通リ負債條件緩和ニ關スル協定成立シタルコト實證候也
年　月　日

何責任何負債整理組合　理事組合長　氏　名印
申出人　氏　名印
相手方　氏　名印

注意　其ノ他必要ナル事項欄ニハ關係人ノ主張斡旋ノ經過負債整理事業資金融通額等主ナル事項ヲ記載スルコト

訂〔靜岡令二二二號〕

●市町村負債整理委員會ノ負債整理斡旋ニ關スル書類ノ様式ニ關スル件

經第二九九號内務部長通牒（昭和九年三月三十一日）

市町村負債整理委員會ノ負債整理斡旋ニ關スル書類ニ關シテハ別記様式ニ準シテ作成スル様致度

市町村長宛

別記

負債整理斡旋事件記錄

記錄號	昭和　年　第　號		
請求組合	何々負債整理組合 代表者		
斡旋委員			
補助者			
何々市町村負債整理委員會	申出人		
	相手方		
	利害關係人		
	保存始期	昭和　年　月	
	保存終期	昭和　年　月	

處務日誌

年月日	要件	委員印

訂（靜岡令二二二號）

昭和　年　月　日

月　日	

文書ノ目錄

丁數	備考

訂（靜岡令二一七號）

負債整理斡旋請求調書

府市町村大字
縣郡

請求者　何々負債整理組合

代表者　何　某

府市町村大字　番地
縣郡

申出人　何　某

府市町村大字　番地
縣郡

相手方

請求ノ事情

一 負債整理申立ノ事情

二、組合ノ爲シタル斡旋ノ經過

三 組合ノ斡旋ニ依リ協定成立セザリシ事由

請求ノ趣旨

右ノ次第ナルニ依リ

負債ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ノ斡旋相成度旨參考資料提出シタリ

右ノ請求ヲ適正ナルモノト認メ之ヲ受理シタリ

昭和 年 月 日

何々市町村負債整理委員會長 何 某㊞

負債整理斡旋請求調書

府縣 郡市 町村大 字

請求者 何々負債整理組合 代表者 何 某

府縣 郡市 町村大 字 番地

申出人 何 某

府縣 郡市 町村大 字 番地

相手方 何 某

請求ノ事情

一 負債整理申立ノ事情

二　組合ノ爲シタル斡旋ノ經過

三　組合ノ斡旋ニ依リ協定成立セザリシ事由

請求ノ趣旨

右ノ次第ナルニ依リ

負債ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ノ斡旋相成度參考資料相添及請求候也

昭和　年　月　日

府市町大字
縣郡村

請求者　何々負債整理組合

代表者　何　某㊞

訂（靜岡令二一七號）

何々市町村負債整理委員會長　何　某殿

右ノ請求ヲ適正ナルモノト認メ之ヲ受理シタリ

昭和　年　月　日

何々市町村負債整理委員會長　何　某㊞

訂（靜岡令二一七號）

昭和　年第　號

負債整理斡旋請求受理竝斡旋委員氏名通知書

今回何々負債整理組合ヨリ申出人何　某相手方何　某間ノ負債ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ノ斡旋方請求アリタル處其ノ請求ヲ適正ナルモノト認メ之ヲ受理シ擔任斡旋委員ヲ何　某ト指定致候條及通知候也

昭和　年　月　日

何々市町村負債整理委員會長　何　某㊞

何　某殿

昭和　年第　號

申出人　何　某

相手方　何　某

右當事者間ノ負債整理斡旋事件ニ付昭和　年　月　日午　時斡旋手續開始セラレ候條　ニ出頭可相成候

追テ事件ノ迅速圓滿ナル解決ヲ期スル爲出頭ハ本人ニ限リ代人ノ出頭ハ特ニ斡旋委員ノ許可ナキ限リ許サレザル儀ニ有之候

昭和　年　月　日

何々市町村負債整理委員會

斡旋委員　何　某㊞

何　某殿

昭和　年第　號

申出人　何　某

相手方　何　某

右當事者間ノ負債整理斡旋事件ニ付昭和　年　月　日午　時斡旋手續開始セラレ候處斡旋ノ結果ニ依リテハ貴殿ニモ利害ノ影響スルモノ有之ヤニ思考セラレ候條同時刻　ニ出頭ノ上斡旋ニ參加相成度候

訂〔靜岡令二一七號〕

追テ事件ノ迅速圓滿ナル解決ヲ期スル爲出頭ハ本人ニ限リ代人ノ出頭ハ特ニ斡旋委員ノ許可ナキ限リ許サレザル儀ニ有之候

昭和　年　月　日

何々市町村負債整理委員會

斡旋委員　何　某㊞

何　某殿

調書

請求者　何々負債整理組合

代表者　何　某

申出人　何　某

相手方　何　某

右當事者間ノ昭和　年第　號負債整理斡旋事件ニ付左記ノ通負債ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ノ斡旋ヲ爲シタリ

記

一　關係人ノ主張

二　斡旋ノ經過

三　斡旋ノ結果

昭和　年　月　日

斡旋委員　何　某印

右調書記載ニ付關係人ノ承諾ヲ得タリ

昭和　年　月　日

斡旋委員　何　某印

訂〔稱岡令二一七號〕

訂〔稱岡令二一七號〕

報告書

申出人　何　某

相手方　何　某

右當事者間ノ昭和　年第　號負債整理斡旋事件ニ付命ニ依リ斡旋致候處其ノ顛末別紙調書ノ通ニ候條御指揮仰度此段及報告候也

昭和　年　月　日

斡旋委員　何　某印

何々市町村負債整理委員會長　何　某殿

右報告書ニ基キ

ノ旨指揮シタリ

昭和　年　月　日

何々市町村負債整理委員會長　何　某印

昭和　年第　號

幹旋終了通知書

何々負債整理組合ハ農村負債整理組合法第四條ノ規定ニ依リ申出人何　某及相手方何　某間ノ負債ニ付其ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ノ幹旋ノ請求ヲ爲シタル處其ノ結末左記ノ通ニ候ニ付此段及通知候也

記

昭和　年　月　日

何々市町村負債整理委員會長　何　某㊞

何　某殿

●市町村負債整理委員會補助金交付規程

靜岡縣告示第千十七號（昭和八年十一月四日）

追加　昭和九年五月告示第五三八號改正

市町村負債整理委員會補助金交付規程左ノ通定ム

市町村負債整理委員會補助金交付規程

第一條　市町村負債整理委員會助成ノ爲本規程ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ハ市町村ガ市町村負債整理委員會ニ要スル費用ニ對シ市町村ニ之ヲ交付ス

第三條　補助金ノ交付ヲ受ケントスル市町村ハ申請書ニ市町村負債整理委員會ノ收支豫算及豫算說明ニ關スル書類ヲ添附シ毎年二月二十日迄ニ知事ニ提出スベシ

訂〔靜岡令二二〇號〕

第四條　補助金ノ交付ヲ受ケタル市町村前條ノ書類ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ知事ノ承認ヲ受クベシ

第五條　補助金ノ交付ヲ受ケタル市町村ハ毎年六月十日迄ニ別記樣式第一號ニ依ル收支決算書及樣式第二號ニ依ル事業成績書各二通ヲ知事ニ提出スベシ

第六條　（削除）

第七條　（削除）

第八條　補助金ノ交付ヲ受ケタル市町村左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ補助金交付ノ指令ヲ取消シ又ハ交付シタル補助金ノ全額又ハ其ノ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ

一　本規程ニ違反シタルトキ

二　補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

附　則

昭和八年度ニ限リ第三條中二月二十日トアルハ昭和九年一月末日トス

訂〔靜岡令二二〇號〕

樣式第一號

負債整理委員會ニ關スル收支決算書

收入		支出	
前年度繰越金	圓	設置費	圓
縣補助金		委員手當	
寄付金		幹旋委員旅費	
何		幹旋委員日當	
同		幹旋委員止宿料	
同		調査費	
一般收入（市町村支出額）		指導費	
計		計	

差引繰越金

備考

(一)　前年度繰越金ハ前年度分決算ノ結果縣補助金等ノ特別收入ノ總額ガ支出總額ヲ越ユル金額ニシテ前年度ヨリ繰越シタルモノヲ掲グルコト

(二)　一般收支ハ特定收入ノ不足額ヲ掲グルモノトス

様式第二號

事業成績報告書

(一)　委員數

(二)　負債條件緩和ノ協定斡旋ニ關スル事項

	員數	件數	金額
前年度ヨリ繰越	未著手		圓
	未解決		
本年度斡旋却下			
同　斡旋成立			
同　斡旋不成立			
翌年度繰越	未著手		
	未解決		

(三)　其ノ他事業ノ概況

訂（靜岡令二二〇號）

●負債整理委員會費豫算ニ關スル件

市町村長宛

地第六〇九號内務部長通牒（昭和九年三月十五日）

昭和八年十一月四日靜岡縣告示第一、〇一七號市町村負債整理委員會補助金交付規程第三條ニ依ル標記豫算ハ左記ニ依リ編成相成樣致度爲念

追而本年度及翌年度引續キ百圓以内交付シ得ル見込ニ付御了知相成度

記

歳入

(款)縣補助金

(項)負債整理委員會費補助

(目)負債整理委員會費補助

歳出

(款)地方改良費

(項)負債整理委員會費

(目)雜給　附記費用辨償及旅費日當止宿料

（昭和八年十二月五日靜岡縣訓令甲第一七號市町村負債整理委員會取扱規程第十條）

(目)需用費　負債整理組合設立費、調査費、消耗品費、通信運搬費、雜費

訂（靜岡令二二〇號）

●負債整理組合設立及市町村負債整理組合委員會設置方針ニ關スル件

市町村長宛

經第四三六號内務部長通牒（昭和九年五月十九日）

昭和八年八月一日農村負債整理組合法ノ施行以來日尚淺キニ不拘去ル三月末日現在全國ニ於テ之ガ組合數約千三百組合ヲ數フルニ至リ本縣ニ於テモ大體豫期通十二ケ町村三十六組合ノ設立認可及十二ケ村負債整理委員會ノ設置ヲ了シ昭和八年度大藏省預金部ヨリ本縣農村負債整理事業ニ對シ割當テラレタル五拾參萬參千圓ハ大部分近ク配分決定ノ手續ヲ採ル順序ト相成候而シテ本年度本縣ニ對スル割當額百貳拾萬圓（見込）モ近ク正式指示アル豫定ニシテ一方目下各地方ヨリ組合ノ設立及市町村負債整理委員會設置ノ希望申出ノ向モ相當有之候ニ付テハ此ノ際左記ノ通組合ノ設立及資金關係其他政府ノ方針ニ則ル縣事務上ノ大體方針ヲ供參考候條既ニ町村ノ經濟更生計畫中負債整理組合設立ノ計畫ヲ樹立セルモノハ勿論其ノ他市町村ニ於テモ各管内部落其ノ他ニ於テ之ガ組合設立ノ氣運アリ且市町村當局ニ於テモ之ニ對シ相當援助スベキ意向有之候場合ハ可成速ニ之ガ組合法ノ趣旨ヲ了解ト徹底トヲ圖リ尙市町村負債整理委員會ノ設置ニ關シ御計畫セラルルガ適當ト思料セラレ候條可然御配意相成度

追テ岐上計畫ノ具體化シタル際ハ速ニ之カ希望申出テ經濟更生課係官

岡　縣告示第千七十七號市町村倉儲整理委員骨補助金交付規程

（三）

（四）昭和九年三月十五日地第六〇九號第三十二號倉庫業法ノ施行ニ關スル件

（五）昭和八年十二月五日靜岡縣岡令甲第十七號市町村倉儲整理委員會規程

以上ノ何レモ縣公報ニ登載ヲ要ス

本件ニ付テハ藤枝倉庫ノ縣令、告示、通牒等參照

（一）昭和八年岡令一月岡日靜岡縣令第六十二號倉庫業整理組合設置

行期則

（二）岡　縣告示第千十六號倉庫業整理組合規約例

第一組合總組合員會設置豫定

（二）一組合總組合員數ヲ平均四五名ト見込ム

昭和八年度　二二委員會　（既決）

岡九年度　四五委員會

岡十年度　四五委員會

岡十一年度　一〇委員會

（注意）

（一）委員會ニ對シテハ日下ノ處二ヶ年繼續シテ每年度一委員會宛ヲ置ク

岡以內補助金交付ノ見込

（二）委員會ノ設置及委員ノ選任ハ市町村長ノ內申ヲ俟テ縣知事之ヲ定ム

ムベニシテ當該市町村倉儲整理組合設立ノ翌々後ニ於テ之ヲ設置スベキモノトス但シ市町村ノ實情內倉儲整理組合設立ノ可能性充分ナル場合ニ於テハ縣ノ設立ニ付指導奬勵スベキ

組合設立前委員會ノ設置ヲ認ム

備考

（一）（注意）參照ノ爲メ五ヶ年、組合設立認可ノ三ヶ年ヲ六ヶ年ニ延長シ

訂正岡令二二〇號】

本件ニ付テハ藤枝倉庫ノ縣令、告示、通牒等參照

（一）昭和八年三月十五日地第六〇九號第三十二號倉庫業整理組合設置

行期則

（二）岡　縣告示第千十六號倉庫業整理組合規約例

第一組合總組合員會設置豫定

（二）一組合總組合員數ヲ平均四五名ト見込ム

昭和八年度　二二委員會　（既決）

岡九年度　四五委員會

岡十年度　四五委員會

岡十一年度　一〇委員會

（注意）

（一）委員會ニ對シテハ日下ノ處二ヶ年繼續シテ每年度一委員會宛ヲ置ク

岡以內補助金交付ノ見込

（二）委員會ノ設置及委員ノ選任ハ市町村長ノ內申ヲ俟テ縣知事之ヲ定ム

ムベニシテ當該市町村倉儲整理組合設立ノ翌々後ニ於テ之ヲ設置スベキモノトス但シ市町村ノ實情內倉儲整理組合設立ノ可能性充分ナル場合ニ於テハ縣ノ設立ニ付指導奬勵スベキ

組合設立前委員會ノ設置ヲ認ム

備考

（一）（注意）參照ノ爲メ五ヶ年、組合設立認可ノ三ヶ年ヲ六ヶ年ニ延長シ

一、倉儲整理組合ノ設立認可ノ本法施行ノ日ヨリ三ヶ年間、倉儲整理委會特別融通額ハ五ヶ年間ニ總額二億圓以內ニシテ本縣農村倉儲整理事業理事業組合割當額ハ五ヶ年ニ大體五百三十萬三千圓以內トスル但シ昨年迄繼常縣會ニ於テ決ノ定ムル所ニ從ヒ之ニ對スル十分ノ三以內ニ相當スル祖先積立金ヲ以テ補充スルモノトス

二、農村倉儲整理事業組合ノ設立ニ伴フ倉庫業法ノ適用ニ關スル特例

昭和八年度（自昭和八年八月一日至三年三月三十一日）

岡九年度　三六組合　（二二ヶ村）

岡十年度　一二〇箇圓

八〇組合　（三二〇市町村乃至五三市町村）

岡十年度　一二〇箇圓

一六〇組合　（四〇市町村乃至四五市町村）

昭和十一年七月三十一日迄ニ）

岡十一年度　一二〇箇圓

四〇組合　（一〇ヶ村）

岡十二年度　一二〇箇圓

（注意）

（一）委會ノ融通ハ五ヶ年、組合設立認可ノ三ヶ年ヲ六ヶ年ニ延長シ

第八章　度量衡

●度量衡取締規則

静岡縣令第四十四號（大正六年十一月二十七日）

沿革　大正九年縣令第七二號、昭和九年二月第七號改正

明治四十二年十二月静岡縣令第六十三號度量衡取締規則左ノ通改正ス

度量衡取締規則

第一條　本則ニ於テ製作者、修覆者又ハ販賣者ト稱スルハ度量衡器又ハ計量器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ヲ、特殊販賣者ト稱スルハ度量衡法施行令第六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ目盛アル玻璃製桝又ハ體温計ノ販賣ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ

第一條ノ二　度量衡器又ハ計量器ノ製作、修覆又ハ販賣營業ノ免許ニ關スル書類又ハ特殊販賣者名簿ノ登錄ニ關スル書類ハ其ノ營業所所在地ノ所轄警察署ヲ經由シテ差出スヘシ

第二條　度量衡器及計量器第一種取締執行ノ告示アリタルトキハ指定ノ日時及場所ニ檢査ヲ受クヘキ度量衡器及計量器ヲ提出スヘシ但シ告示ヲ以テ指定シタル度量衡器及計量器ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　當該官吏、警察官吏取締上必要アリト認メ度量衡器又ハ計量器ノ提出ヲ命シタルトキハ其ノ指定ノ日時及場所ニ之ヲ提出スヘシ

第四條　度量衡器又ハ計量器ニシテ其ノ要部ニ他物ノ著シク附著セルモノハ取引上若ハ證明上ノ計量ニ使用スルコトヲ得ス

第五條　業務上取引又ハ證明ノ爲度量衡器又ハ計量器ヲ使用スル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル度量衡器又ハ計量器ヲ店舗、工場其ノ他取引若ハ證明ヲ爲ス場所又ハ取引若ハ證明ヲ爲ス物件ト同一ノ場所ニ置キ又ハ從業中携帶スルコトヲ得ス但シ度量衡法施行令第九條第三號及第四號ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　檢定證印ナキモノ

二　修覆ヲ爲シタル後其ノ檢定ヲ受ケザルモノ

三　變造シタルモノ

四　度量衡法施行令第十六條ニ定ムル公差以上ノ差狂ヲ生シタルモノ

五　構造カ度量衡法施行細則第四十九條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルモノ

六　他物ノ著シク附著セルモノ

第五條ノ二　度量衡法施行細則第二十三條ノ七ノ規定ニ依ル通知ハ樣式第一號ニ依ル登錄證ヲ以テス

第五條ノ三　前條ノ登錄證ヲ汚損又ハ亡失シタルトキハ遲滯ナク其ノ再交付ヲ知事ニ出願スヘシ

第五條ノ四　販賣者並特殊販賣者ハ營業ノ種別ニ從ヒ看板ヲ揭出スヘシ

第六條　製作者、販賣者及特殊販賣者ハ樣式第二號ニ依リ度量衡器、計量器又ハ目盛アル玻璃製桝及體温計販賣簿及樣式第二號ノ二ニ依リ度量衡器、計量器又ハ目盛アル玻璃製桝及體温計仕入簿、製作者及修覆者ハ樣式第二號ノ三ニ依リ衡器又ハ計量器修整簿ヲ營業所毎ニ備ヘ所定ノ事項ヲ遲滯ナク記載スヘシ

第七條　製作者、販賣者及特殊販賣者ハ營業所毎ニ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日ニ至ル一箇年分ノ度量衡器、計量器又ハ目盛アル玻

有事務及營業計度實況ヲ樣式第三號、作四號又ハ第五號ニ依リ、毎年四月二十日限リ知事ニ届出ツヘシ

製作者、販賣者又ハ其ノ相續人其ノ委任ヲ受ケタル者ハ、販賣ノ場所及期間ヲ定メ、前項ノ規定ニ依リ知事ノ承認ヲ受ケタル者ハ、其ノ場所及期間ニ於テ、第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要セス

以外ノ營業所ノ廢止ヲ届出ツヘシ場合ハ前項ノ届出後ニ於テ販賣高ヲ同所ノ營業ノ爲引續キ免許ヲ受ケタル者ハ、其ノ免許期間ノ滿了ノ時ニ知事ニ届出ツヘシ但シ營業ノ廢止ヲ届出ツヘシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

特殊販賣者登錄ヲ抹消セラレタルトキハ、其ノ相續人ニ於テ知事ニ届出ツヘシ第一項ノ届出後ニ於ケル販賣高ヲ本人若ハ其ノ相續人ニ於テ知事ニ届出ツヘシ

第八節　販賣ノ場所外ニ於ケル營業

販賣者其ノ營業所外ニ於テ修覆ヲ爲サムトスルトキハ、左ノ事項ヲ記載シ、營業所ヲ管轄スル警察官署ヲ經由シテ、知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　營業所外ニ於テ修覆ヲ爲サムトスル事由

二　修覆ノ場所及期間

三　從業者ノ住所氏名

第九節　度量衡法施行細則第十八條第二項ニ依ル願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　工場外ニ於テ製作又ハ修覆ヲ爲スコトヲ要スル事由

二　製作又ハ修覆ヲ爲サムトスル度量衡器又ハ計量器ノ種類及數

三　製作又ハ修覆ノ場所及期間

四　從業者ノ住所氏名

第十條　度量衡法施行細則第十九條但書ニ依ル願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　營業所外ニ於テ度量衡器又ハ計量器ノ販賣ヲ爲サムトスル度量衡器又ハ計量器ノ種類及數

二　販賣ヲ爲サムトスル場所及期間

三　販賣ノ場所ニ於ケル營業ノ種類及數

第十一條　度量衡法施行細則第二十一條第一項ニ依ル届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　所有ノ銅ノ數

二　分銅ノ種類及數

三　修覆ノ開始ノ年月日

前項ノ届出ニ係ル修覆ノ業ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク之ヲ知事ニ届出ツヘシ

第十二條　製作者又ハ修覆者ニシテ度量衡器又ハ計量器ノ修覆ヲ爲サムトスル者ハ、度量衡法施行令第九條ノ場合ヲ除クノ外其ノ檢定ヲ受ケスシテ修覆ヲ爲シタル計量器ヲ使用スヘカラス

第十三條　第三條乃至第五條、第八條又ハ第十一條第二項ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十四條　本則ハ大正七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條第一號ノ規定ハ大正五年勅令第百二十七號附則第四項ニ該當スル瓦斯「メートル」ニ之ヲ適用セス

樣式第一號

（用紙寸法　縱三二　六五四　横二一　七五四）

節	登錄證	氏名又ハ名稱	營業所	右者度量衡法ニ依リ　年　月　日特殊販賣者名簿ニ登錄セリ
年　月　日				
				知事

樣式第二號

度量衡器（計量器）ノ目盛アル玻璃製桿及體温計販賣簿

販賣月日	種類	箇數	價格	備考
			圓	
月計				
累計				

注意

一　卸賣ヲ爲ス者ニ在リテハ卸賣ト小賣トヲ分チテ別口又ハ別冊ト爲シ其ノ卸賣先ヲ備考欄ニ記載スヘシ但シ卸賣先別ニ口取ヲ爲スコトヲ妨ケス

二　度量衡器販賣簿ニ在リテハ度器、量器、衡器毎ニ別口ト爲シ毎月末ニ月計及累計ヲ揭クヘシ

三　計量器販賣簿ニ在リテハ計壓器、浮秤、蒸餾計、體温計、檢尺器、檢位衡、纖度分銅、孔脂計毎ニ別口ト爲シ毎月末ニ月計及累計ヲ揭クヘシ

四　目盛アル玻璃製桿及體温計販賣簿ニ在リテハ目盛アル玻璃製桿、體温計毎ニ別口ト爲シ毎月末ニ月計及累計ヲ揭クヘシ

五　種類ハ度器ニ在リテハ直尺、曲リ尺、鳶尺、巻尺、鰻尺、縮尺、特殊ノ種類又ハ構造ノ度器、量器ニ在リテハ金屬製桿、硝子製桿、陶磁器桿、玻璃製桿、木製圓筒形桿、木製方形桿、斗桝、化學用量器、瓦斯「メートル」、水直「メートル」、ガソリン量器、特殊ノ種類又ハ構造ノ量器、衡器ニ在リテハ天秤、皿天秤、棹秤、上皿棹秤、十分秤、棹秤、自働秤、分銅、定量壺、定量甕、特殊ノ種類又ハ構造ノ衡器、計量器ニ在リテハ計壓器、浮秤、蒸餾計、體温計、檢尺器、檢位衡、纖度分銅、孔脂計ト爲スヘシ

六　記載事項ハ年度（自其ノ年四月一日至翌年三月三十一日）毎ニ別口又ハ別冊ト爲スヘシ

度量衡器(計量器)(目盛アル玻璃製枡及體温計)仕入簿

仕入月日	種類	記號又ハ商號	箇數	價格	仕入先	備考
				圓		
月計						
累計						

注意

一、記號又ハ商號欄ニハ器物ニ記サレタル記號又ハ器物ノ通稱等ヲ記載スベシ

二、備考欄ニハ將來參考トナルベキ事項ヲ記載スベシ

三、其ノ他樣式第二號ノ注意ニ準ジ記載スベシ

樣式第二號ノ三

衡器(計量器)修整簿(桿秤ノ取緒、皿紐、鈎紐又ハ錘絲ニシテ金屬ニ係ラサルモノノ修覆ヲ除ク)

引受月日 引渡月日	種類	番號	箇數	修整ノ要點	修整料	依頼者 住所	依頼者 氏名
					圓		

訂(靜岡令二一六號)

注意

一　種類欄ニハ衡器又ハ計量器ノ種類ヲ掲ケ衡器ニ在リテハ其ノ秤量、掛量又ハ重量ヲ併記スヘシ

二　修整ノ要點欄ニハ修覆又ハ掃除若ハ塗換等修整ノ要點ヲ記載スヘシ

樣式第三號

自　年四月一日
至　年三月三十一日　度量衡器販賣高屆

	度器		量器 瓦斯「メートル」水量「メートル」及ガソリン量器ヲ除ク		瓦斯「メートル」		水量「メートル」		ガソリン量器		衡器		合計	
	箇數	價格	箇數	價格	箇數	價格	箇數	價格	箇數	價格	箇數	價格	箇數	價格
卸賣高 縣外		圓		圓		圓		圓		圓		圓		圓
卸賣高 縣內														
卸賣高 計														
小賣高														
合計														
年三月三十一日殘高		箇		箇		箇		箇		箇		箇		箇

備考　(本欄ニハ縣外卸賣ノ場合ニ限リ卸賣先ノ道府縣名ヲ度器量器衡器別ニ記載スベシ)

右ノ通ニ候也

年　月　日

第十編　産業　第八章　度量衡

訂(靜岡令二一六號)

様式第四號

知事宛

自　年四月一日
至　年三月三十一日　計量器販賣高屆

營業所

度(量)(衡)器製作(販賣)者　氏名印

區分		計壓器		浮秤		寒暖計		體温計		檢尺器		檢位衡		纖度分銅		乳脂計		合計	
		個數	價格	個數	價格	個數	價格	個數	價格	個數	價格	個數	價格	個數	價格	個數	價格	個數	價格
卸賣高	縣內																		
	縣外																		
	計																		
小賣高																			
合計																			

(本欄ニハ縣外卸賣ノ場合ニ限リ卸賣先ノ道府縣名ヲ計量器ノ種類別ニ記載スヘシ)

右之通ニ候也

訂(静岡令二一六號)

様式第五號

年　月　日

知事宛

自　年四月一日
至　年三月三十一日　目盛アル玻璃製桝及體温計販賣高屆

營業所

計量器製作(販賣)者　氏名印

	目盛アル玻璃製桝		體温計		合計	
	個數	價格	個數	價格	個數	價格
卸　縣外		圓		圓		圓

賣高	縣內								
	計								
小賣高									
合計									
三十一年三月日殘高				箇			箇		箇
備考	（本欄ニハ縣外卸賣ノ場合ニ限リ卸賣先ノ道府縣名ヲ目盛アル玻璃製枡、體溫計別ニ記載スベシ）								

右ノ通ニ候也

年　月　日

知事宛

營業所

特殊販賣者　氏　名印

訂〔靜岡令二一六號〕

訂〔靜岡令二一六號〕

●度量衡取締規則施行手續

靜岡縣訓令甲第二十三號（大正六年十一月二十七日）

沿革　大正九年訓令甲第四九號、昭和五年三月第七號、八年七月第八號、九年二月第六號改正

内務部　警察部　警察署　市役所
町村役場

明治四十二年十二月　靜岡縣訓令甲第二十八號度量衡取締規則施行規程左ノ通改正ス

度量衡取締規則施行手續

第一條　警察署長ハ度量衡器又ハ計量器ノ使用者及營業者ノ毎戸ニ就キ毎年度一回以上普ク第二種取締ヲ執行シ其ノ成績ヲ樣式第一號ニ依リ毎年四月二十日限リ知事ニ報告スヘシ

第一條ノ二　警察署長ハ毎年度一回以上度量衡ノ計量ノ取締ヲ執行シ其ノ成績ヲ樣式第一號ノ二ニ依リ毎年四月二十日限リ知事ニ報告スヘシ

第二條　警察署長ハ前月中告發ニ係ル度量衡器、計量器及度量衡ノ計量ニ關スル犯則者ヲ樣式第二號ニ依リ毎月十日限リ知事ニ報告スヘシ

第三條　警察官吏ハ其ノ受持區域毎ニ樣式第三號ニ依リ度量衡器及計量器取締簿ヲ備ヘ第二種取締執行ノ都度其ノ成績ヲ記載スヘシ

第四條　警察署長ハ度量衡器及計量器第一種取締執行ノ場合受持警察官吏ヲ檢査場ニ派遣シ取締事務ノ補助ヲ爲サシムヘシ

第五條　市町村長ハ計量ノ正確ヲ圖リ犯則ヲ豫防スル爲常ニ度量衡器又ハ計量器ノ營業者及使用者竝度量衡ニ依ル商品ノ販賣者ノ指導ニ努ムヘシ

第六條　市長ハ毎年度一回以上第二種取締及度量衡ノ計量ノ取締ヲ執行シ其ノ成績ヲ樣式第一號及第一號ノ二ニ準シ毎年四月二十日限リ知事ニ報告スヘシ

第七條　市町村長ハ度量衡器及計量器第一種取締執行ノ告示アリタルトキハ左ノ各號ニ依リ之カ補助ヲ爲スヘシ

一　樣式第四號ニ依リ調査書及告知書ヲ調製シ檢査施行期日前度量衡器又ハ計量器使用者ノ毎戸ニ就キ實地調査ヲ爲シ且受檢事項ヲ告知シ遺漏ナク檢査ヲ受ケシムヘシ

二　檢査施行期日二日以上ニ亙ル町村ニ在リテハ其ノ日數ニ應シ使用者ヲ適當ニ區分シテ其ノ日割ヲ定メ前號ノ手續ヲ施行スヘシ

三　檢査場ニハ豫メ受檢器物ノ受付、配置、檢査及還付ニ充ツヘキ適當ノ設備ヲ爲シ且檢査上必要ナル物品ヲ備付クヘシ

四　吏員及傭夫ヲ指揮シテ檢査ニ關スル諸般ノ用務ヲ補助シ其ノ進捗上支障ナカラシムヘシ

五　檢査終了後調査書及告知書ヲ整理編綴シテ調査書ハ之ヲ當廳ニ送付シ告知書ハ次回取締執行ノ參考ニ供スル爲保存スヘシ

第八條　警察署長ハ前條第一號ノ場合受持警察官吏ヲ派遣シテ共ニ調査ヲ施行セシムヘシ

第九條　市町村長ハ度量衡器又ハ計量器ノ營業者又ハ其ノ法定代理人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ其ノ事實ヲ詳記シ遲滯ナク之ヲ知事ニ報告スヘシ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　度量衡法第十四條ノ規定ノ適用又ハ準用ニ依リ刑ニ處セラレタルトキ

三　破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

訂〔靜岡令二一六號〕

樣式第一號

自　年四月一日
至　年三月三十一日　度量衡器及計量器第二種取締成績報告

何警察署

市町村名	總戸數	取締ヲ執行シタル戸數	檢閲シタル器數				同上ノ内犯則器數			
			度器	量器	衡器	計量器	計	度器	量器	衡器	計量器	計
計												
參照 前年度分												

犯則事項	處分	人員
	告發	
	訓戒	
	告發	
	訓戒	

訂〔靜岡令二一六號〕

照	参	前年度分	計					
			訓戒		告發		訓戒	告發
		訓戒		告發				

右及報告候也

年　月　日

知事　宛

何郡某署長　氏　名印

注意

一　度量衡器又ハ計量器ノ營業者ニ對スル取締執行ノ戸數及器數ハ使用者ノ分ト合算セスシテ其ノ倍ニ之ヲ乘スヘシ

二　同一市町村ニ於テ同一人ニ對シ同以上取締ヲ執行シタル場合ニ在リテハ取締ヲ執行シタル戸數ハ之ヲ一戸トシテ計算スヘシ

三　前年度ニ比シ著シク增減アルモノニ付テハ其ノ事由ヲ備考トシテ記載スヘシ

四　度量衡器又ハ計量器ニ關スル犯罪豫防ニ關シ本年度ニ於テ新ニ施設シタル事項ニ付テハ其ノ要領ヲ備考トシテ記載スヘシ

（訂正追加大正一一年内務省令第一六號）

（訂正追加大正一一年内務省令第一六五號）

様式第一號ノ二

何年度商品量目取締報告

何事務署

一、取締成績

其ノ一　度量衡ノ正味量ノ表記アル商品ニ對スル分

臨檢戸數		調査件數	實量不足件數	告發件數	備考
表記者					
非表記者					

其ノ二　度量衡ニ依リ販賣スル商品ニシテ正味量ノ表記ナキ商品ニ對スル分

臨檢戸數	調査件數	不正計量件數	告發件數	備考

二、正味量ノ表記商品ノ增減ノ狀況

三、量目取締ヲ行ヒタル商品名

右及報告候也

年　月　日

何事務署長　氏　名

産業　知事　宛

一、第一項取締成績備考欄ニハ商品量目取締ノ結果ニ徵シ其ノ成績特ニ不良ナリシモノ其ノ他將來取締上參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

二、第一項取締成績中調査件數及實量不足件數竝不正計量件數ハ臨檢戸數一戸ニ於テ同種類ノ商品ニ關スルモノハ之ヲ一件トシテ計

算スヘシ

三、第二項ニハ度量衡法第八條ノ三及度量衡法施行細則第五十條ノ四ノ規定實施ノ結果從來商品ニ爲シタル正味量ノ表記ヲ廢シ又ハ新ニ表記ヲ爲スニ至リタル狀況ヲ記述スヘシ

様式第二號

年　月中度量衡犯則者告發報告

何警察署

犯則事項	處分	住所	業務	氏名

右及報告候也

年　月　日

知事宛

何警察署長　氏　名印

注意

一　告發シタル犯則者ナキ場合ハ各欄ニ斜線ヲ施シ差出スヘシ

二　告發ヲ爲シタル月ニ於テ處分確定ニ至ラサルトキハ其ノ處分ニ付テハ追テ之ヲ報告スヘシ

様式第三號

自　年四月一日
至　年三月三十一日　度量衡器及計量器取締簿

受持區域名

取締執行月日	檢閲シタル器數				同上ノ内犯則器數				犯則事項	處分	業務	住所氏名
	度器	量器	衡器	計量器	度器	量器	衡器	計量器				

訂〔靜岡令二一六號〕

注意

一　本取締簿ハ取締ヲ行フ警察官吏ノ受持ニ從ヒ警察署、警部補派出所、巡査部長派出所、巡査派出所又ハ巡査駐在所ニ保管シ置クヘシ

二　本取締簿ハ一箇年度（會計年度）毎ニ更新調製スヘシ

三　使用者取締ト營業者取締トハ別口ニ記載スヘシ

様式第四號（用紙寸法竪一二八粍横三六四粍）

器量	纖度分銅				
	檢位衡				

度量衡器及計量器使用者調査書

調査第　號	調査		受付		検査		還付	
受付第　號								

住所	種類	度器 直尺	度器 曲リ尺	度器 疊尺	度器 巻尺	度器 鏈尺	度器 縮尺	度器 特殊度器	量器 金屬製枡	量器 木材 圓壔形	量器 木材 方形	量器 斗概	量器 特殊量器	衡器 天秤	衡器 上皿天秤	衡器 臺秤	衡器 上皿桿秤	衡器 自働秤	衡器 桿秤 木製	衡器 桿秤 金屬製	衡器 桿秤 骨象牙製	衡器 分銅	衡器 定量錘	衡器 定量増錘	衡器 特殊衡器	計器 検尺器
業務	調査箇數																									
	検査不合格數																									
	不合格器物處分 修覆																									
氏名	不合格器物處分 廢棄																									
	摘要																									

（注意）
（一）指定ノ日時ニ度量衡器及計量器ヲ提出セサルトキハ處罰セラル
（二）此ノ調査後検査日迄ニ購入シタル器物モ亦必ス提出シ
（三）器物ハ清潔ニ掃除シ名札ヲ付シテ提出セラルヘシ
（四）秤ニ附屬セル錘、増錘ハ全部取揃ヘテ提出セラルヘシ
（五）検査ノ際不合格ノモノアルトキハ之カ始末ヲ要スルニ

調査第　號　受付第　號

度量衡器及計量器検査告知書

本書記載ノ度量衡器及計量器ニ本書ヲ添ヘ來　月　日午前　時迄ニ　ニ提出シ検査ヲ受ケラルヘシ

年　月　日

市町村長　氏　名印

計量器 纖度分銅	計量器 検位衡	計量器 検尺器	衡器 特殊衡器	衡器 定量増錘	衡器 定量錘	衡器 分銅	衡器 桿秤 骨象牙製	衡器 桿秤 金屬製	衡器 桿秤 木製	衡器 自働秤	衡器 上皿桿秤	衡器 臺秤	衡器 上皿天秤	衡器 天秤	量器 特殊量器	量器 斗概	量器 木材 方形	量器 木材 圓壔形	量器 金屬製枡

（切取線）

ヘシ
檢査ヲ受ケラルヘシ

付其ノ責任アル者持參セラルヘシ

住所	種類	度器 特殊度器 縮尺 鏈尺 卷尺 疊尺 曲り尺 直尺	務業	氏名
	査數調箇			
	査數檢格合不			
	修覆			
	廢棄			
	器物處分不合格			
	摘要			

●度量衡器檢定事務取扱規程

廳中達第五號（明治四十四年三月二十日）

度量衡器檢定事務取扱規程左ノ通定ム

内務部　度量衡器檢定所

度量衡器檢定事務取扱規程

第一條　度量衡器ノ檢定請求書ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ不都合ナキモノハ第一號樣式ノ收受簿ニ登記シ知事ノ檢定承認ヲ受ケタル後貼用印紙ノ消印ヲ爲スヘシ

一　請求書記載事項ノ正否

二　貼付セル收入印紙ノ當否

三　請求書記載ノ度量衡器ノ種類及個數ト現品ト符合セルヤ否ヤ

第二條　第一條ノ手續ヲ終リタルトキハ第二號樣式ノ檢定臺帳ニ登記スヘシ

第三條　檢定ハ檢定請求書ノ受付順序ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ檢定請求者ノ合意ニ依リ順序變更ノ申請アリタル場合及一件ノ檢定ニ三日以上ヲ要スルトキハ此ノ限リニ在ラス

第四條　檢定成績ハ第三號樣式ニ依リ毎日日計ヲ作リ知事ノ檢閲ヲ受ケ第四號樣式ニ依リ月計ヲ作リ翌月七日迄ニ知事ノ閲覽ニ供スヘシ

第五條　不合格器物ハ第五號樣式ノ明細簿ニ記入シ檢定ノ參照ニ供スヘシ

第六條　檢定請求書ハ毎月分ヲ一括シ其ノ件數ヲ表記シテ一年度ヲ編綴シ翌年一月三十一日迄ニ知事官房ニ引繼クヘシ

第七條　檢定用具ハ隨時檢定原器ニ比較シテ其ノ成績ヲ第六號樣式ノ帳簿ニ記入スヘシ

度量衡器檢定請求收受簿

訂〔靜岡令六七號〕三版

第一號樣式

部長	課長	主任	受付月日	番號	檢定出願種類	檢定手數料	請求者氏名
						圓	

第二號樣式

收受月日番號	請求者氏名	物質形狀種別	全長全量又ハ秤量	目盛感量	段數番號	用途區別	個數	檢定料	收受主任印	檢定官受印	檢定成績 檢印	檢定月日	檢定官印	備考	合格不合格	不合格事由及其個數番號	請求者ヘ還付月日	受領者印
月日								圓				月日					月日	
第號								十				月日						
月日								錢				月日					月日	
第號								厘				月日						
月日												月日					月日	
第號												月日						
月日												月日					月日	
第號												月日						
月日												月日					月日	
第號												月日						

訂〔靜岡令〕三版

第三號樣式

度量衡器檢定成績日計簿

月日	種類／區別	前日ヨリ繰越高	本日請求高	本日檢定濟高 合格數	不合格數	計	殘高	備考
月　日	度器							
	量器							
	衡器							
	計							
月　日	度器							
	量器							
	衡器							
	計							

主任	産業課長	内務部長

主任	産業課長	内務部長

第四號樣式

明治　年　月分度量衡器檢定成績

種別		成績	器物個數 製作	修覆	使用中ノモノ	計	檢定器物百中不合格數 製作	修覆	使用中ノモノ	計	檢定手數料 製作	修覆	使用中ノモノ	計
度器 直尺		總數												
		不合格數												
	メートル	同												
		同												
	鯨	同												
		同												
曲リ尺	尺	同												
		同												
	メートル	同												
		同												
疊尺	鯨	同												
		同												
	尺	同												
		同												
	メートル	同												
		同												
巻尺	鯨	同												
		同												
	尺	同												
		同												
	メートル	同												
		同												
鍵尺	尺	同												
		同												
	メートル	同												
		同												
計		同												
		同												
參照 度器前月分		同												
		同												
量器 木 圓壔形	升	同												
		同												
	リットル	同												
		同												
方形	升	同												
		同												

製形	器														衡																參照前月分	參照前月分	參照前月分	參照前月分
	計		斗	桝			金屬製								天秤		上皿天秤		棹秤		上皿棹秤		臺秤		棹秤		金屬					
			板狀		四角形		升		リットル		リツトル				貫	キロ	貫	キロ	貫	キロ	貫	キロ	貫	キロ	貫	キロ	貫	キロ				
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

分																																
白	眞鍮		鐵		自動秤		十分秤		棹秤		極棹秤		紫檀黑檀棹秤		骨棹秤		棹秤																
貫	キロ	貫	キロ	貫	キロ	貫	キロ	貫	キロ	貫	キロ	貫	キロ	貫	キロ	貫	キロ															
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

銅		錘及扮錘												器 計		参照 衡器前月分		總計		参照 度量衡器前月分	
銅		鐵				眞鍮				白銅											
キロ		貫		キロ		貫		キロ		貫		キロ									
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

第五號樣式

不合格明細簿

請求月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
還付月日									
種類									
製作修覆上ニ於ケル注意ヲ促シタルモノ 作工ニ付テ									
製作修覆上ニ於ケル注意ヲ促シタルモノ 材料ニ付テ									
請求者氏名									

第六號樣式

度量衡検定用具検査成績簿

年月日			
種類			
個數			
成績			
備考			

●度量衡器及計量器第一種取締執行省略規程

静岡縣告示第四百十九號(大正十年十二月十六日)

沿革　昭和九年四月告示第三五一號改正

度量衡器及計量器第一種取締執行省略規程左ノ通定ム

度量衡器及計量器第一種取締執行省略規程

第一條　度量衡器及計量器ノ使用者ニシテ左ノ各號ノ事項ヲ實行シ其ノ成績良好ト認ムルトキハ一定ノ期間度量衡器及計量器第一種取締及市長ノ行フ第二種取締ノ執行ヲ省略スルコトアルヘシ

一、管理員ヲ置クコト

二、検査用具ヲ設備スルコト

三、一年一囘以上検査用具ニ依リ度量衡器及計量器ノ検査ヲ行ヒ且一定ノ方法ニ依リ常時其ノ正確ヲ保持スルニ注意スルコト

第一條ノ二　前條ノ管理員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ度量衡法施行令第三條第一項各號ニ該當セサルモノタルヘシ

一　商工大臣ノ行フ度量衡講習ヲ修了シ且二年以上度量衡器又ハ計量器ノ検定、取締、製作又ハ修覆ノ實務ニ從事シタル者

二　判任以上ノ官ニ在職シテ三年以上度量衡器又ハ計量器ノ検定又ハ取締ノ實務ニ從事シタル者

特別ノ事由ニ依リ商工大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前項管理員ノ資格ニ關スル制限ニ依ラサルコトヲ得

第二條　第一條各號ノ事項ヲ實行シタル者ハ管理員ノ氏名、検査用具ノ種類及個數、検査規程竝左記樣式ニ依ル検査成績ヲ知事ニ屆出ツヘシ

第三條　市ニシテ左ノ各號ノ事項ヲ實行シ度量衡器及計量器第二種取締ノ成績良好ト認ムルトキハ其ノ區域内ニ於ケル使用者ニ對シ一定ノ期間度量衡器及計量器第一種取締ノ執行ヲ省略スルコトアルヘシ

一、專任取締吏員ヲ置クコト

二、検査用具ヲ設備スルコト

三、全區域内ヲ通シテ一年一囘以上ノ取締ヲ行フコト

第四條 前條各號ノ事項ヲ實行シタル市ニ在リテハ取締吏員ノ氏名、檢查用具ノ種類及個數、取締規程並取締ニ關スル毎年度經費豫算額ヲ知事ニ屆出ツヘシ

第五條 本規程ニ依リ度量衡器及計量器ノ取締執行ノ省略ヲ受ケントスルモノハ知事ニ申請スヘシ

樣式

大正 年 自 月 日 至 月 日 度量衡器及計量器檢查成績

種別			檢查器數	不合格數	百中不合格割合	不合格器物ノ處置	主ナル不合格事由
度器	直尺						
	曲尺						
	疊尺						
	卷尺						
	鏈尺						
	縮尺						
	特殊度器						
	計						
量器	金屬製桝						
	木製桝	圓壔形					
		方形					
	斗概						
	特殊量器						
	計						
衡器	天秤						
	上皿天秤						
	臺秤						
	上皿桿秤						
	自働秤						
	桿秤	木製					
		金屬製					
		骨、象牙製					
	分銅						
	定量錘						
	定量增錘						
	特殊衡器						
	計						
計量器	檢尺器						
	檢定衡						
	織度分銅						

訂(靜岡令二一七號)

訂(靜岡令二一五號)

器	計					
合	計					

右及御屆候也

年　月　日

知事宛

注意　本成績ハ檢査ヲ行ヒタル都度遲滯ナク之ヲ屆出ツヘシ

檢査施行者　氏　名

住所　氏　名㊞

●度量衡器及計量器第二種取締ニ於テ度量衡器又ハ計量器ニ附スヘキ標識ノ雛形及種類

靜岡縣告示第八號（昭和六年一月十日）

沼津市長ノ行フ度量衡器及計量器第二種取締ニ於テ度量衡器又ハ計量器ニ附スヘキ標識ノ雛形及種類左ノ通之ヲ定ム

適法器物ニ附スヘキ標識

㊄（輪廓内ノ數字ハ毎年其年ノ下位ノ數字ヲ用フ）

大徑　四、五ミリメートル
中徑　三ミリメートル
小徑　一、五ミリメートル

不適法器物ニ附スヘキ標識

大　長徑　六ミリメートル　短徑　四ミリメートル
小　長徑　二ミリメートル　短徑　一、五ミリメートル

昭和八年六月十三日
靜岡縣告示第五百六十號

清水市長ノ執行スル度量衡器及計量器第二種取締ニ於テ度量衡器又ハ計量器ニ附スヘキ標識ノ雛形及種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

適法器物ニ附スヘキ標識

㊇（輪廓内ノ數字ハ毎年其ノ年ノ下位ノ數字ヲ用ウ）

大徑　四・五ミリメートル
中徑　三ミリメートル
小徑　一・五ミリメートル

不適法器物ニ附スヘキ標識

大　長徑六ミリメートル　短徑　四ミリメートル
小　長徑二ミリメートル　短徑　一・五ミリメートル

昭和八年九月十六日
靜岡縣告示第八百七十二號

靜岡市長ノ執行スル度量衡器及計量器第二種取締ニ於テ度量衡器又ハ計量器ニ附スヘキ標識ノ雛形及種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

訂〔靜岡令二一〇號〕

適法器物ニ附スヘキ標識

㊇（輪廓内ノ數字ハ毎年其ノ年ノ下位ノ數字ヲ用ウ）

大徑　四・五ミリメートル
中徑　三ミリメートル
小徑　一・五ミリメートル

違法器物ニ附スヘキ標識

大　長徑　六ミリメートル　短徑　四ミリメートル
小　長徑　二ミリメートル　短徑　一・五ミリメートル

昭和九年六月二十一日
靜岡縣告示第七百二十五號

濱松市長ノ執行スル度量衡器及計量器第二種取締ニ於テ度量衡器又ハ計量器ニ附スヘキ標識ノ雛形及種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

適法器物ニ附スヘキ標識

㊈（輪廓内ノ數字ハ毎年其ノ年ノ下位ノ數字ヲ用ウ）

大徑　四、五ミリメートル
中徑　三ミリメートル
小徑　一、五ミリメートル

違法器物ニ附スヘキ標識

大　長徑　六ミリメートル　短徑　四ミリメートル
小　長徑　二ミリメートル　短徑　一、五ミリメートル

●メートル法度量衡使用ニ關スル件

靜岡縣訓令甲第十八號（大正十三年十月二十四日）

訂〔靜岡令二二二號〕

知事官房　内務部　警察部　〔郡〕市役所
警察署〔警察分署〕　試驗場　蠶業取締所
測候所　三保學院　警察病院　町村役場
學校　圖書館

爾今特別ノ事由アルモノヲ除クノ外左記各項ニ依リ速ニメートル法度量衡ヲ使用スヘシ

一、既定ノ法令、文書、圖書、臺帳等ニ表示アル度量衡ハ此等ヲ改訂又ハ更新ノ場合ニハメートル法ニ改メ端數ヲ整理シテ成ルヘク簡單ナル數ノモノト爲スコト

二、新ニ法令、統計、文書等ニ表示スル度量衡ハメートル法ニ依ルコト

三、新ニ物件ノ購入、賣却又ハ新設等ノ場合ニ用ウル度量衡ニ付テモ前同斷トス

四、度量衡器其ノ他ノ器具機械ニシテ度量衡ノ目盛其ノ他ノ表示アルモノノ購入、改造又ハ修覆ヲ爲ストキハメートル法ノモノト爲スコト

五、學校ニ於ケル教授上ノ度量衡ハメートル法ヲ主トスルコト

六、商品其ノ他ノ物件ニ爲ス度量衡ノ表記又ハ建値標準ハメートル法（端數ヲ附セス成ルヘク簡單ナル數ノモノト爲ス）ニ依ルコト但シ已ムヲ得サル場合ニ限リ慣用ノ度量衡ヲ傍記スルコト

七、溫度、壓力其ノ他ノ計量單位ニ付テモ以上ニ準シテ統一ヲ實行スルコト

●メートル法度量衡ニ改定實行事項調ニ關スル件

商第一二三一號内務部長通牒（大正十五年七月二十七日）

町村長宛

標記ノ件ニ關シテハ結々實行勸誘ノ上メートル法ニ改定セシメ一ケ年分ノ事績ヲ取纒メ毎年一月末日迄ニ左表ニ依リ報告可相成コトニ相成居リ候條爲念

追テ從前ノ取扱例ニ依リ上半期分ヲ七月中ニ報告相成候向モ有之候ヘ共本文ニ依リ翌年一月改メテ報告相成度申添候

記

公務所名 實行者團體名 事業者名	慣用度量衡ヲメートル法度量衡ニ改メタル事項	改定ニ要シタル期間及其改定ノ順序方法	完了ニ相當期間チ要スルモノニ在リテハ其改定ノ順序及完了見込年限

●洋品雜貨類ノサイズヲメートル法ニ改訂ノ件

四商第一三五四號内務部長通牒（昭和五年二月二十日）

市町村長宛

洋品雜貨類ノサイズヲメートル法ニ改訂スル場合ノ稱呼及サイズノ採リ方ニ付商工省ニ於テハ豫テヨリ東京方面ニ於ケル取扱業者ト共ニ研究中ノ處今般カラー、ワイシヤツ兩ニ關シ大阪方面ニ於ケル當業者ノ意見ヲモ參酌シ左記ノ通リ協定シ本年一月一日ヨリ實行ゼル趣ニ付テハ御部内ニ於ケル需給兩方面ニ周知方御取計相成度

追テ本件ハ貴市（町村）受持ノ度量衡指導委員ニハ特ニ徹底セシメラレ度申添候

記

一、カラー

（イ）サイズノ採リ方ハ一方ノ穴ノ外端ヨリ他ノ穴ノ中央迄トス

（ロ）穴ノ長サハ十二ミリメートルトス

（ハ）サイズハ一センチメートル上リトス（子供用ハ一センチメートル下リトス）

（ニ）ソフトカラーモ同前トス

二、ワイシヤツ

（イ）サイズノ採リ方ハ一方ノ穴ノ外端ヨリ外ノ穴ノ外端三ミリメートル内迄トス

（ロ）穴ノ長サハ十二ミリメートルトス

（ハ）サイズハ一センチメートル上リトス

三、カラーハ内法、ワイシヤツハ外法ヲ計ルモノトス

四、稱呼ハ35、36、37、38ノ如クシcmヲ附記セズ恰モ番號ト同樣トスルモ過渡期中ニアリテハ舊方ヲ併記スルモ差支ナシ

五、新舊對照表

新 センチ糎	舊 吋 吋
35 糎	13½
36 〃	14 〃
37 〃	14½ 〃
38 〃	15 〃
39 〃	15½ 〃
40 〃	15¾ 〃
41 〃	16 〃
42 〃	16½ 〃

訂（靜岡令二二二號）

昭和五年八月十二日
商第六七六號内務部長通牒

市町村長宛

洋品雜貨類ノサイズヲメートル法ニ改訂ノ件

標記ノ件ニ關シテハ本年二月二十日4商第一三五四號（縣公報第七六五號登載）ヲ以テ及通牒置候處商工省ニ於テハ今般更ニバンド、サスペンダー及靴下ノ三種ニ付別記ノ通リ決定シ卽時新製品ヨリ實施シ其ノ他ハ遲クモ本年末迄ニ諸般ノ準備ヲ了シ昭和六年一月一日ヨリ實行ノ趣ニ付テハ御部内ニ於ケル需給兩方面ニ周知方御取計相成度

追テ本件ハ貴市（町村）受持度量衡指導委員ニハ特ニ徹底セシメラレ度申添候

記

一、サスペンダー

サスペンダーノサイズノ採リ方ハ兩端ボタン止穴ノ外端ヨリ外端ヲ測リタル對角線ノ長サトス

備考、對角線ノ長サヲ測ル場合金具ニ依リ長短ヲ調整スルモノハ全ク延シタル長サヲ、ゴムニ依リ伸縮スルモノハ平ニ置キタル長サヲ以テ其ノ長サトス

一、靴下

（イ）靴下サイズノ採リ方ハ靴下爪先ヨリ踵ミシンノ末端マテノ長サトス

（ロ）サイズハ一糎上リトス

靴下ノサイズ

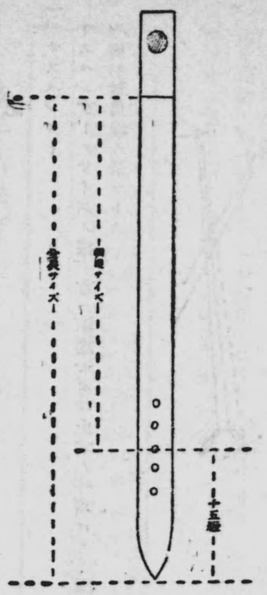
改正サイズ	換算數	從來ノサイズノ對稱
cm	inch	inch
10	3.93	4 弱
11	4.33	4½ 弱
12	4.72	4½ 強
13	5.11	5
14	5.51	5½
15	5.90	6
16	6.29	6½ 弱
17	6.69	6½ 強
18	7.08	7
19	7.48	7½
20	7.87	8 弱
21	8.26	8 強
22	8.66	8½ 強
23	9.05	9
24	9.44	9½ 弱
25	9.84	10 弱
26	10.23	10 強
27	10.62	10½ 強
28	11.02	11
29	11.41	11½ 弱

訂（靜岡令二二二號）

一、バンド（男子、婦人及小供用ヲ含ム）

バンドサイズノ表記ハバックル付根ヨリ測リタル糎ヲ單位トシタル全長トス

但シ内地向製品ニ限リ胴廻リサイズトシテ全長ヨリ十五糎ヲ減シタル長サヲ併記スルコトヲ得
サイズノ種類ハ五、十ノ如ク五糎上リトス
（一糎以内ノ公差ヲ認ム）



●洋服ノサイズヲメートル法ニ改訂ノ件

商第三四〇號内務部長通牒（昭和九年四月五日）
市町村長宛

洋服ノサイズニ吋又ハ尺、寸等ヤードポンド法又ハ尺貫法ニ依ル單位ヲ用フルモノ有之候處之等ヲ速カニメートル法ニ依ルサイズニ改ムルコトハメートル法實行促進上最モ必要ナリト認メ今般商工省工務局主宰ノ下ニ關東、關西兩地方ノ主ナル百貨店協議ノ結果左記ノ通メートル法ニ依ル洋服サイズヲ協定シ本年九月一日ヨリ實行スルコト、相成候ニ付テハ御部内當業者ニ對シ右決定サイズヲ採用致シ候樣御取計相成度

記

一、小學生（男）洋服
（イ）サイズノ採リ方ハ仕立上リ洋服ノ上胴（腕ノ付根箇所）ノ周圍ヲ計ルモノトス
（ロ）サイズハ六歳ヨリ十四歳迄ノ年齡サイズトス
（ハ）稱呼ニ對スル上胴ノサイズ

稱呼	上胴
6號	70糎
7	72
8	74
9	76
10	78
11	80
12	82
13	84
14	86

（ニ）稱呼ハ六歳用ヲ六號、七歳用ヲ七號ト稱シ以下之ニ準ス

二、中學及大學生（男）洋服
（イ）サイズノ採リ方ハ仕立上リ洋服ノ上胴（腕ノ付根箇所）ノ周圍及カラー（末端ヨリ末端迄ノ長サ）ノ長サヲ計ルモノトス
（ロ）上胴及カラーノサイズ

カラー	上胴
32糎	80糎
33	83
34	86
35	89
36	92
37	95
38	98
39	101

（ハ）サイズハ無名數ニテ表示シ稱呼ハ上胴ノサイズノ無名數トス

訂（靜岡令二三〇號）

●手袋ノサイズヲメートル法ニ改訂ノ件

九商第一八〇四號經濟部長通牒（昭和十年一月二十九日）
市町村長宛

今般商工省ニ於テハ關東、關西兩地方ノ主ナル百貨店等ト協議ノ結果左記ノ通リ手袋ノサイズヲメートル法ニ改訂ノコトニ協定シ昭和十年春物ヨリ實行致ズコト、相成候ニ付テハ貴管内當業者竝ニ一般使用者ニ對シ周知方可然御取計相成度

追テ本件ハ貴市町村受持度量衡指導委員ニ對シ指導事項トシテ示達シ置カレ度申添候

記

商工省裁定

一、手袋
（イ）サイズノ採リ方ハ拇指ノ附根ヨリ直角ニ掌ノ周圍ヲ計ルモノトス
（ロ）サイズハ十四糎ヨリ一糎上リトス但シ皮製品ニ限リ半糎上リトス
コトヲ得

糎	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2

（ハ）手袋ニハ其ノ使用ニ適合スルサイズヲ無名數ニテ表記ス但シ太絲織出製品ニ限リサイズノ表記ヲ省略スルコトヲ得

二、手袋ノサイズハ昭和十年春物ヨリ實行ス但シ同年冬物迄ハ從來ノサイズヲ併記スルコトヲ得

註
一、十三糎以下及二十六糎以上ノサイズハ表記セザルモノトス
二、太絲織出製品トハ毛絲製品及軍手ヲ謂フ

訂（靜岡令二四一號）

●足袋ノサイズヲメートル法ニ改訂ノ件

商第三一六號内務部長通牒（昭和八年三月十四日）
市町村長宛

今般商工省ニ於テハ關東、關西兩地方ノ主タル百貨店竝足袋製造業者等ト協議ノ結果左記ノ通リ足袋ノサイズヲメートル法ニ改訂ノコトニ協定シ來ル四月十一日ヨリ實行致スコト、相成候ニ付テハ貴管内當業者竝ニ一般使用者ニ對シ之カ周知方可然御取計相成度

記

商工省裁定

一、足袋
（イ）サイズノ採リ方ハ仕上リ足袋底親指ノ末端縫目ヨリ踵中央部末端縫目迄ノ長サトシ其ノ長サハ糎ニテ之ヲ表記ス
（ロ）サイズハ十四糎ヨリ一糎上リトシ二二糎ヨリハ半糎上リトス
（ハ）サイズノ表記及稱呼ハ無名數トス

備考
（1）當分ノ間一三・五糎、一四・五糎及二〇・五糎ノサイズヲ用フルコトヲ得
（2）二年以内ニ限リ現在ノサイズノ採リ方ニ依ル文數ヲ併記スルコトヲ得

二、地下足袋
サイズノ採リ方其ノ他ハ足袋ニ準ズ

附記
足袋ノサイズニ關シ關東竝關西ニ於ケル百貨店及百貨店關係足袋製造業

訂（靜岡令二三〇號）

者ノ決議

(1) 足袋ノ袋及帶ニハ關東、關西共昭和八年四月十一日ヨリメートル法ニ依ルサイズヲ記載スルコト

(2) 「コハゼ」ニ刻ミタル文數ハ關東、關西共可成速ニメートル法ニ依ル數字ニ改ムコト

(3) 關東ニ於テハ現在ノ文數ヲメートル法ノサイズト併記スル場合ノ糎ト文數トノ比較ハ左記ニ依リ二四・五糎以上ハ實數ニ最モ近キ文數ヲ併記スルコト

關西ニ於テハ現在ノ文數ヲ併記セス

糎	文數
13.5	5.5
14.5	6.0
16.0	6.5
17.0	7.0
18.0	7.5
19.0	8.0
20.5	8.5
21.0	8.7
22.0	9.0
22.5	9.3
23.0	9.5
23.5	9.7
24.0	10.0

(4) 關西ニ於テハ二二・五糎二三・五糎等半糎ノ端數アルモノハ二二・五、二三・五ト表記ス（但シ呼ア時ハ二二半、二三半ト呼ブ）

(5) 足袋カバーノサイズハ關東、關西共使用上ニ適合スルサイズヲメートル法ニテ表記ス

●藥品類ノ計量ニ用ウル單位ノ件

商第五六五號內務、學務部長通牒（昭和八年五月十一日）

市町村長　中等學校長　小學校長宛

度量衡法上容積ノ單位トシテ「グラム」ナル名稱ナキニ拘ラズ官廳、學校、醫師、藥劑師其ノ他新聞雜誌等ニ於テ之ヲ用ウル者有之衡ノ單位「グラム」ノ觀念ノ混同ヲ生ジ易キヲ以テ其ノ使用ヲ廢止セラレ度旨第六十三帝國議會ニ請願書提出採擇セラレ候次第モ有之候處元來本件ハ容積一立方センチメートル卽チ一ミリリットルノ液體ヲ直チニ一グラムト呼稱セルヨリ生ジタルモノニシテ斯ノ如ク稱フルコトハ不可然義ニ有之候條（市町村長宛）此ノ旨關係ノ向ニ周知セシメラレ度（主務省ヨリ申越ノ次第モ有之候

第九章　氣象

●〔庵原郡清水町〕清水受新田ニ暴風標設置

靜岡縣告示第二百四十五號（明治十七年十二月十三日）

當管下駿河國〔庵原郡清水町〕受新田二百十八番地ニ於テ暴風標ヲ建設シ明治十七年十二月二十日ヨリ暴風警報ノアル毎ニ信號ヲ揭示ス

●濱松、沼津暴風警報及天氣豫報開始

靜岡縣告示第百五號（明治三十四年五月二十四日）

沿革　明治三六年告示第二一三號、大正四年第一五〇號改正

來ル六月一日ヨリ左記ノ箇所ニ於テ暴風警報及天氣豫報ヲ開始ス

一　濱松〔町〕大字高

東經百三十七度四十三分

北緯三十四度四十三分乙圖中●ノ場所

一　沼津測候所構內

東經百三十八度五十一分

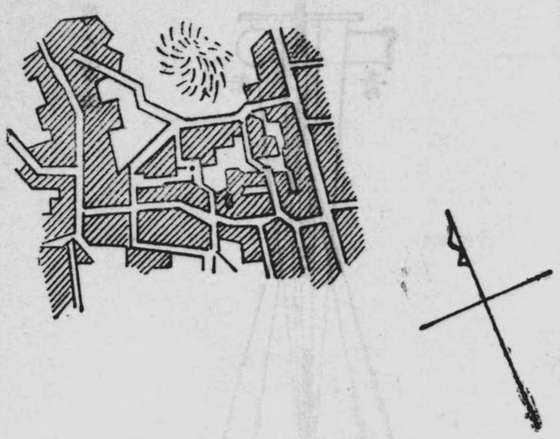
北緯三十五度六分丙圖中●ノ場所

訂〔靜岡令二四一號〕

甲圖（削除）

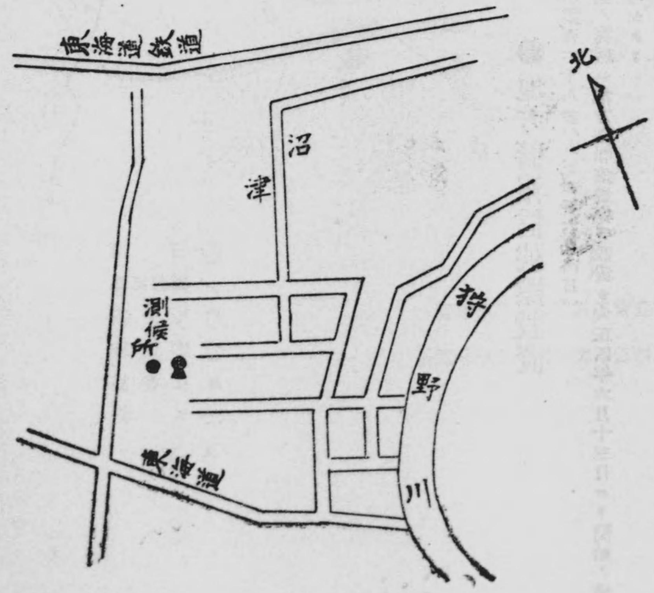
濱松〔町〕大字高

乙圖

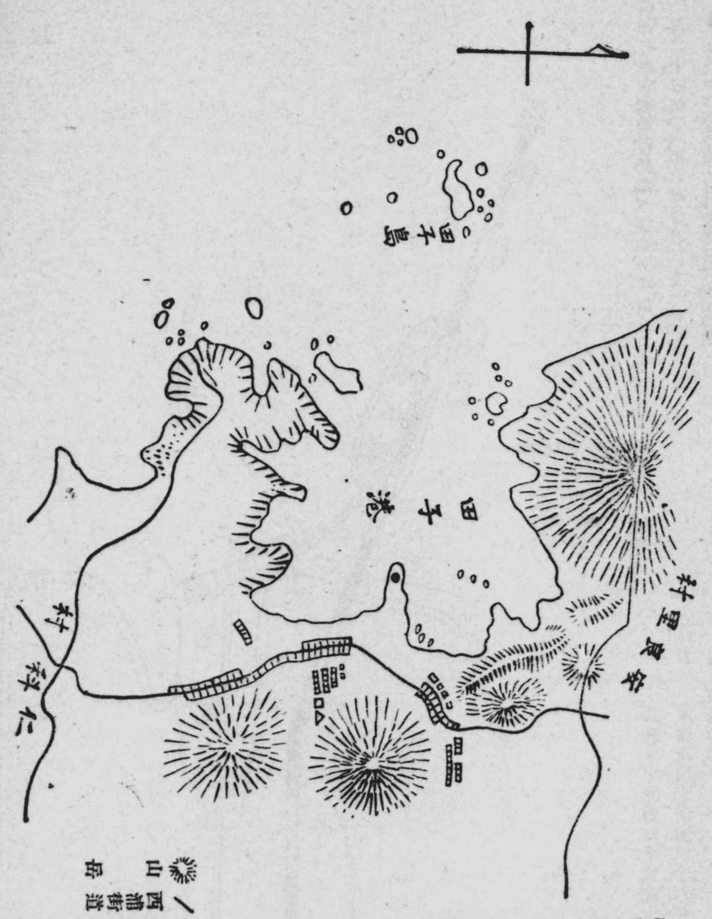


沼津測候所構內

丙圖



訂〔靜岡令三四號〕三版



警報信號標建設地附近地勢圖

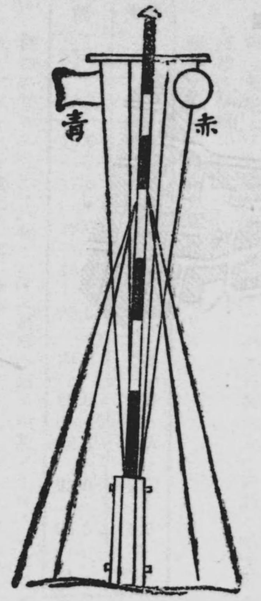
賀茂郡田子村大字井田子字唐太

訂（靜岡令二〇一號）

凡例
人信號標
●　□　▲　△　／
家　場　校　學　小　山
岳　道　街　浦　山

實施ノ方法

揭揚之例



●地方警報信號標設置

告示第百六十八號（大正四年六月四日）

左記ノ箇所ニ地方警報信號標ヲ設置シ大正四年六月十三日ヨリ開始ノ儀許可シタリ

一、賀茂郡田子村字唐太

位置　東經百三十八度四十六分
　　北緯三十四度四十一分十一秒

訂（靜岡令三四號）三版

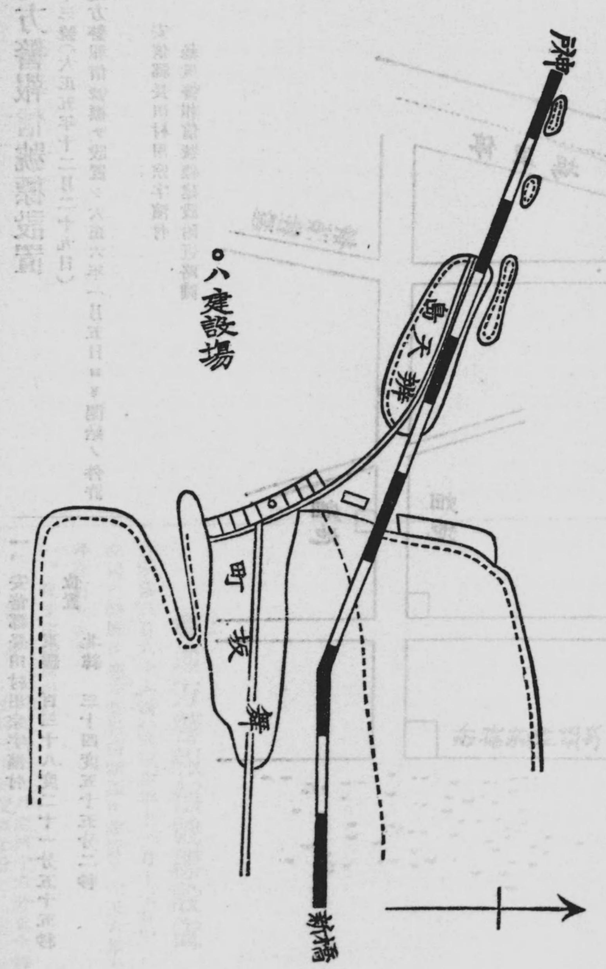
●地方警報信號標設置

告示第二百二十三號（大正三年七月二十一日）

左記ノ箇所ニ地方警報信號標ヲ設立シ本年七月十六日ヨリ開始ノ儀許可セリ

一、濱名郡舞坂町

位置　東經百三十七度三十六分二十五秒
　　北緯三十四度四十分五十四秒



訂（静岡令五一號）三版

●地方警報信號標設置

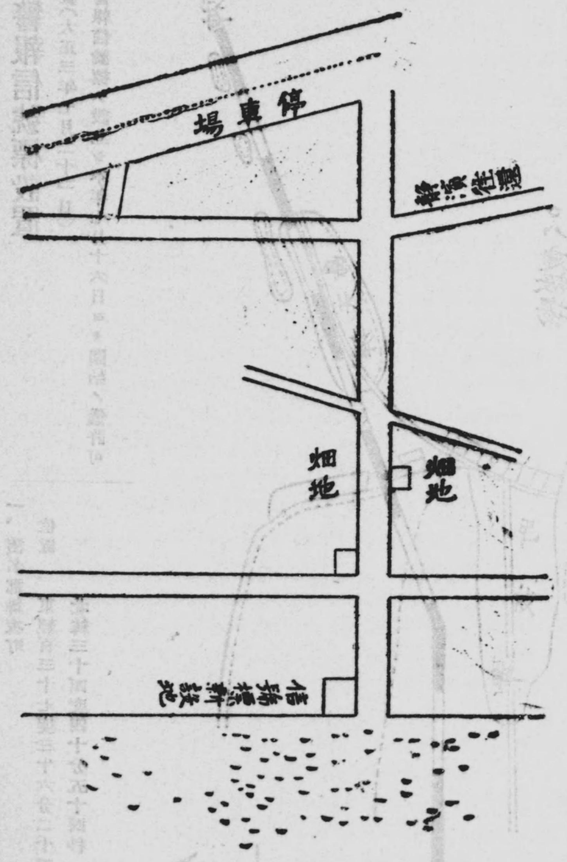
告示第四百五十三號（大正五年十二月二十九日）

左記ノ箇所ニ地方警報信號標ヲ設置シ大正六年一月五日ヨリ開始ノ件許可シタリ

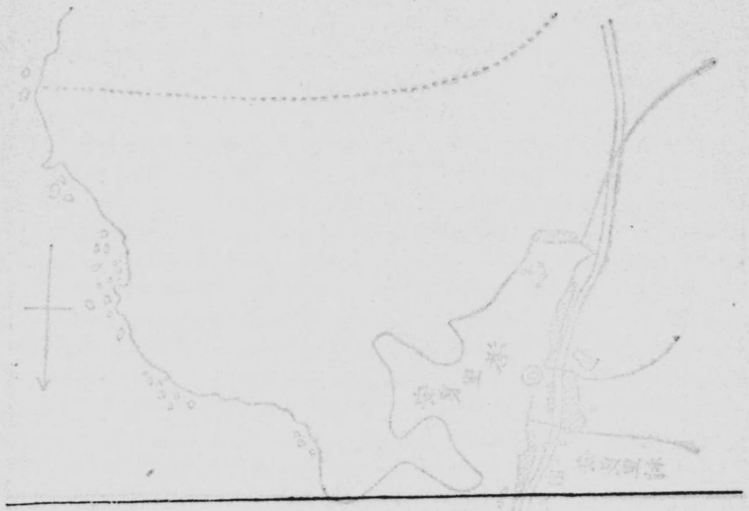
一、安倍郡長田村用宗字濱付

位置　東經　百三十八度二十一分五十五秒
　　北緯　三十四度五十五分二秒

安倍郡長田村用宗字濱付
暴風警報信號標建設附近略圖



訂（靜岡令五一號ノ三）



●地方警報信號標設置

告示第三百六十九號（大正六年十一月十三日）

左記ノ箇所ニ地方警報信號標ヲ設置シ大正六年十一月十九日ヨリ開始ノ件許可シタリ

一、賀茂郡安良里村

位置　（東經百三十八度四十六分五十秒
　　（北緯三十四度五十分

訂（靜岡令一九三號）

●地方警報信號標設置

告示第百六十八號（大正八年五月二日）

左記ノ箇所ニ地方警報信號標ヲ設置シ大正八年五月十日ヨリ開始ノ件

可ラサラン

一、志太郡榛澤町燒之原

位置　東經　百三十八度二十分

北緯　三十四度五十一分

（大正八）六十五

（一、六萬分ノ一縮尺）圖參照附近地形

安良里村

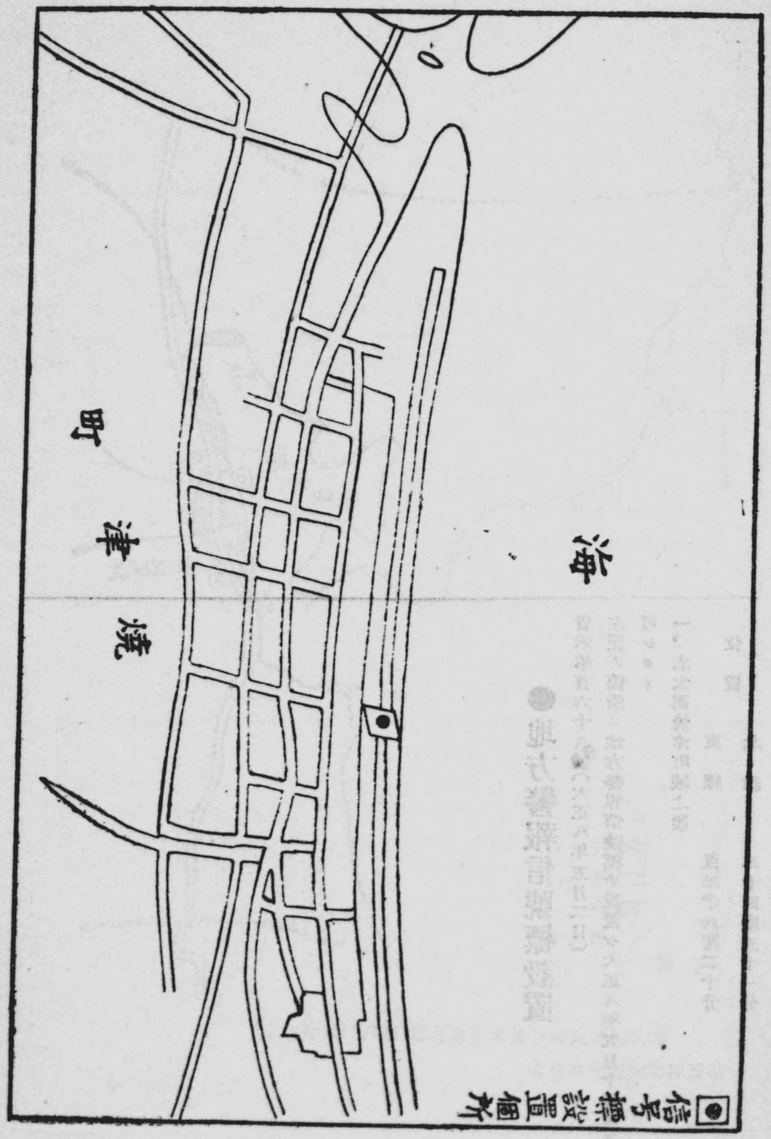
港

安良里村

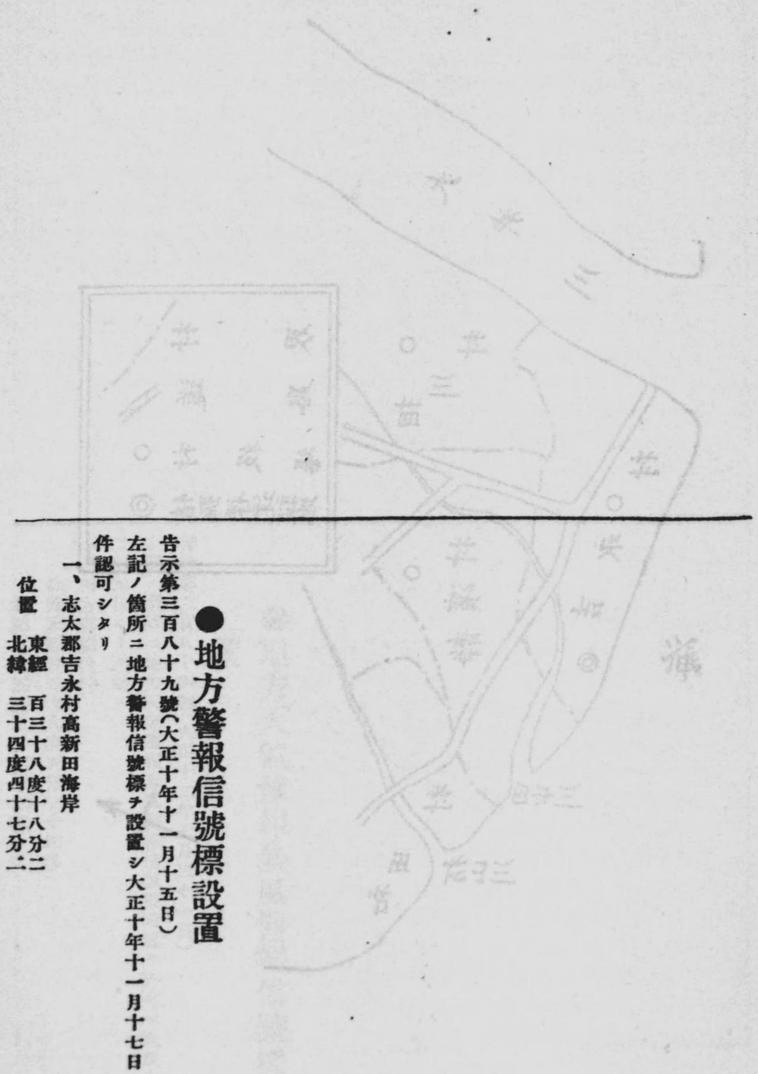
例

兒　◎　⊠　ン：

村役場　小學校　信號所　人家



訂（靜岡令七三號）三版



訂（靜岡令九一號）三版

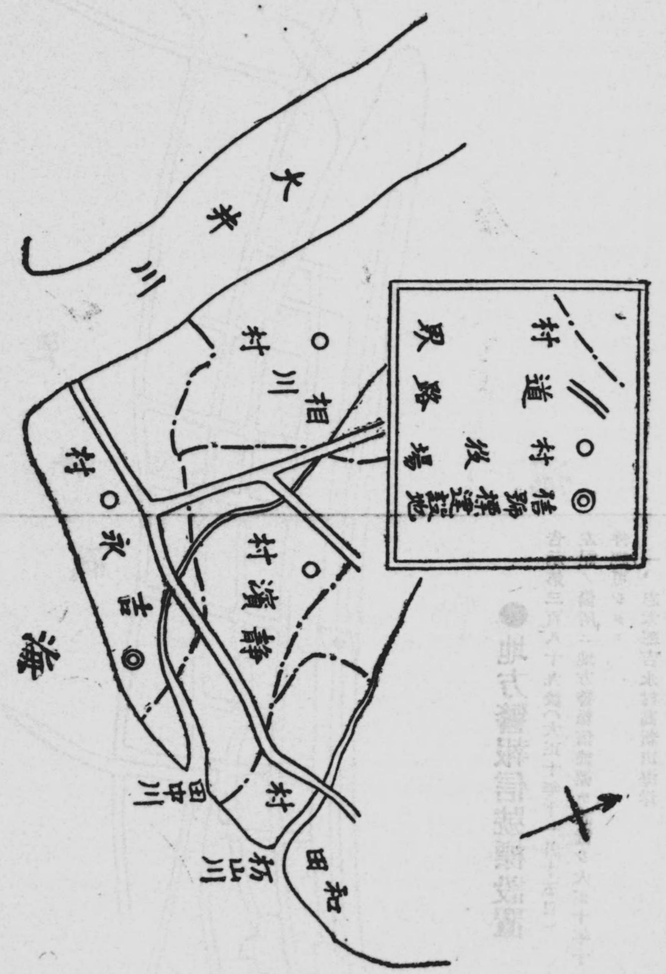
●地方警報信號標設置

告示第三百八十九號（大正十年十一月十五日）

左記ノ箇所ニ地方警報信號標ヲ設置シ大正十年十一月十七日ヨリ開始ノ件認可シタリ

一、志太郡吉永村高新田海岸

位置　東經　百三十八度十八分二
　　北緯　三十四度四十七分二



訂（靜岡令九一號）三版

訂（靜岡令一一五號）

●地方天氣豫報暴風警報信號標設置

告示第二百八十四號（大正十二年七月三十一日）

左記ノ箇所ニ地方天氣豫報暴風警報信號柱設置ヲ許可シ大正十二年七月二十五日ヨリ開始ス

一、田方郡網代村

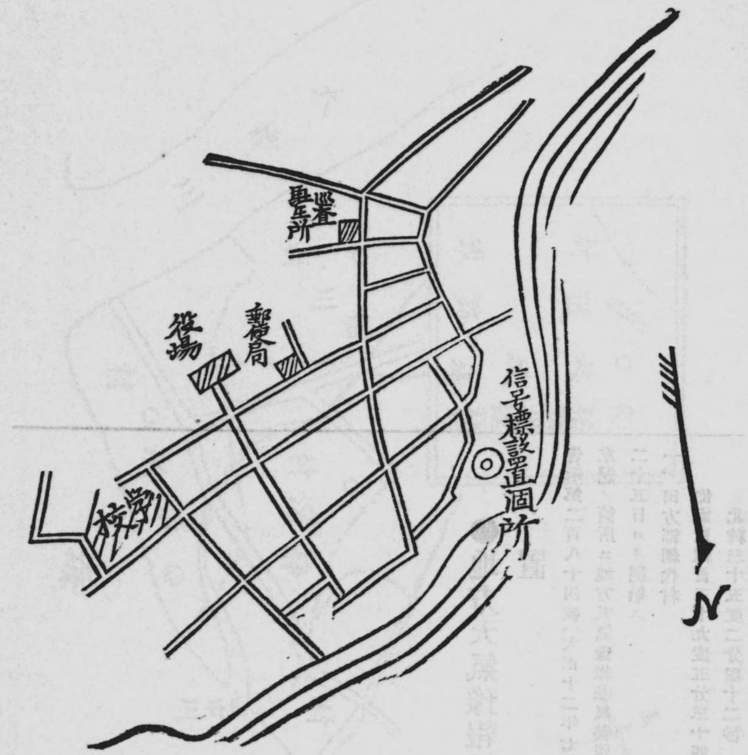
位置東經百三十九度五分三十四秒

北緯三十五度二分四十二秒

靜岡縣田方郡網代村

地方氣象信號標建設附近圖

位置　東經百三十九度五分三十四秒
　　北緯三十五度二分四十二秒



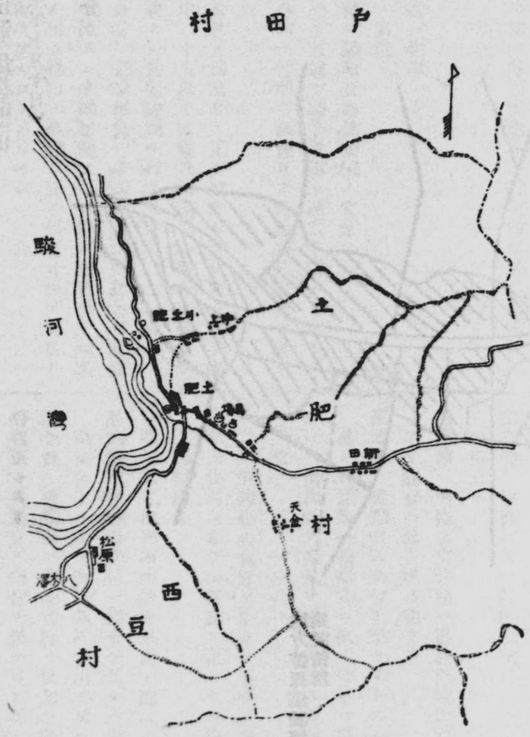
訂（靜岡令一一五號）

昭和三年一月二十八日
告示第四十六號

一、田方郡土肥村

位置　東經百三十八度四十五分
　　北緯三十四度五十五分

地勢



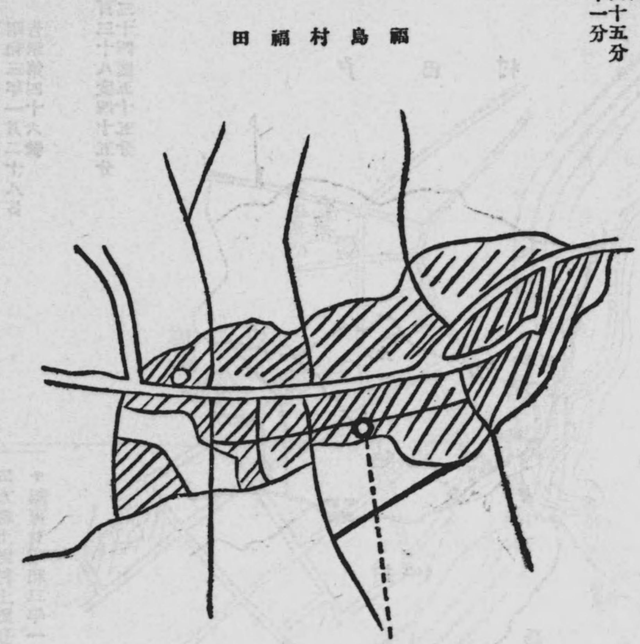
田方郡土肥村土肥登木口國平ニ對シ左ノ箇所ニ地方天氣豫報信號標設置ヲ認可シ昭和三年一月十五日ヨリ開始ス

訂（靜岡令一四〇號）

●地方警報信號標設置

告示第六百七十二號（大正十三年十月十日）

磐田郡福島村福田
位置　東經百三十七度四十五分
　　北緯三十四度四十一分



左記ノ箇所ニ地方警報信號標ヲ設置シ大正十三年十月十九日ヨリ開始ノ件許可シタリ

訂（靜岡令一四〇號ノ

第十章　雜則

●副業奬勵規程

告示第五百八十七號（昭和八年六月十七日）

副業奬勵規程左ノ通定ム

副業奬勵規程

第一條　副業奬勵ノ爲本規程ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ市町村又ハ産業團體ニ對シ左ニ揭グル助成ヲ行フ

一　奬勵金ノ交付
二　經營ニ關スル調査、研究、指導
三　副業ニ關スル指導敎師ノ派遣
四　副業用種苗、種畜、種禽、種卵及器具機械ノ交付

第二條　奬勵金ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ副業奬勵上適當ト認メタルモノニ對シ之ヲ交付ス但シ其ノ事項ニ付別ニ縣費ヨリ奬勵金ノ交付ヲ受クル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　町村又ハ農會、產業組合其ノ他法令ニ基キ設立セラレタル產業團體竝其ノ會員又ハ組合員中三十人以上ノ業者相集リ小組合ヲ設立シ各種副業ノ綜合經營上必要ナル共同施設ヲ行フモノ
二　郡市以上ヲ區域トスル農會、茶業組合、產業組合、山林會、水產會、同業組合其ノ他副業ニ關スル產業團體ニシテ縣ノ指定セル副業ニ關シ左ノ事業ヲ爲スモノ但シ特別ノ事情ニ依リ知事ニ於テ適當ト認ムル場合ハ此ノ區域ニ依ラザルコトアルベシ
1　副業品ノ生產及販賣ニ關スル斡旋
2　副業ヲ指導スベキ技術員ノ養成
3　傳習會、講習會、競技會ノ開催
4　副業用種苗、種畜、種禽、種卵及器具機械等ノ購入又ハ配付
5　副業經營ニ關スル共同設備
6　副業品ノ生產改良ニ關スル施設
7　前各號ノ外知事ニ於テ必要ト認ムル事項

第三條　前條ニ依ル奬勵金交付ニ就テハ知事ハ毎年度事業計劃ヲ定メ之ヲ指示ス

第四條　奬勵金交付額ハ當該事業豫算額ノ半額以内トス但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ毎年三月末日迄ニ左ノ事項ヲ具シ別記第一號樣式ニ依リ知事ニ申請スベシ

一　奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル事業ノ計劃、收支豫算及事業實施方法
二　奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル副業ノ現況竝將來ノ見込
三　法人ニ非ザル團體ニ在リテハ前各號ノ外設立年月日、區域、員數及規約
四　其ノ他知事ニ於テ必要ト認ムル書類

第六條　奬勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者其ノ事業計劃又ハ收支豫算ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クベシ

第七條　奬勵金ハ事業實施ノ狀況ヲ調査ノ上之ヲ交付ス

第八條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ別記第二號樣式ニ依リ事業成績及經費決算書ヲ翌年度五月末日限リ知事ニ報告スベシ

訂（靜岡令二〇五號）

第九條　奨勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ知事ハ必要ニ應ジ命令ヲ發シ又ハ部下官吏ヲシテ事業ノ施行竝收支ノ狀況ニ付檢査又ハ指示ヲ爲サシムルコトアルベシ

第十條　本規程竝本規程ニ依ル命令又ハ處分ニ違背シ又ハ奨勵金ノ指令ヲ取消シ又ハ其ノ金額ヲ減少シ既ニ交付シタルモノハ其ノ一部若ハ全部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

第十一條　本規程ニ依リ差出スベキ書類ハ總テ所轄市役所、町村役場ヲ經由スベシ但シ郡區域以上ノ團體ニアリテハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　市町村長ニ於テ前條ニ依リ受理シタル書類ハ事實ヲ調査ノ上意見ヲ附シ速ニ送付スベシ

附　則

一　本規程ノ期限ハ本年ヨリ七月末日迄トス

別　記

（第一號樣式）

副業奨勵金下付申請

副業奨勵規程ニ基キ昭和何年度ニ於テ別紙計劃書ノ通事業實施致度候

事業奨勵金下付相成度此段申請候也

昭和　年　月　日

郡（市）（町）村

何組合（何會）

代表者　氏　　名㊞

知事　宛

添附書類

一、事業計劃

（注意）

施設事業毎ニ實施ノ計劃及其ノ實行方法ヲ具體的ニ詳細記載スルコト

二、收支豫算

三、事業實施ニ關スル規程

四、奨勵金ノ交付ヲ受ケントスル副業ノ現況竝將來ノ見込

（注意）

副業品ノ種類毎ニ現在ノ產額、從業者數、取引ノ狀況及將來ノ事業

五、法人ニ非ザル團體ニ在リテハ前項ノ外特ニ左ノ事項ヲ記載添附ノコト

1、區　　域

2、組合設立年月日

3、組合規約

4、組合員數

5、役職員名

（第二號樣式）

事業成績報告

一、實施事業成績

（注意）

（一）施設事業毎ニ實施ノ方法及其ノ成績ヲ具體的ニ詳細記載スルコト

（二）材料ノ共同購入、生產品ノ共同販賣、工場及販賣ニ關スル共同事業ヲ行ヒタルモノニ在リテハ其ノ取扱品毎ニ數量價格及組合員ノ利用狀況、原料仕入先、生產品仕向先等ヲ明細ニ記入スルコト

二、收支決算

收入（支出）

費目	決算額	豫算額	比較 増	比較 減	備考

三、其ノ他參考トナルベキ事項

右及報告候也

昭和　年　月　日

何郡（市）（町）村

何組合（何會）

代表者　氏　　名㊞

知事　宛

●農村副業的加工業ニ對スル財團法人三井報恩會ノ資金援助ニ關スル件

農第一九一三號内務部長通牒（昭和九年九月十一日）

市町村長宛

農山漁村ニ於ケル副業的加工業ノ經營ハ農山漁村經濟更生計畫樹立上最モ適切ト認メ從來之ガ奬勵ニ努メ來リ候處今回財團法人三井報恩會ニ於テモ斯業ノ普及發達ニ資スル爲之ニ要スル資金ノ援助ヲ可致趣ニ付貴部内ニ於ケル農村副業的加工業ニ關スル團體ニシテ事業經營上特ニ資金ノ援助ヲ希望スル向有之候ハバ左記要項ニ依リ申出有之樣關係團體ニ對シ可然御示達相成度候

追テ本年度資金ニ就テハ九月二十日迄ニ申込書提出相成度候

記

農村副業的加工業ノ資金援助要項

一、資金ノ援助ヲ受クベキ事業主體ハ原則トシテ産業組合又ハ農事實行組合ナルコト

農事實行組合ガ事業主體ナル場合ハ資金ノ援助ハ産業組合ヲ通ジテ之ヲナスコト

二、援助資金ハ原則トシテ經營主體ガ初メテ副業的加工業ヲ開始スル場合其ノ共同加工場ノ建設及之ニ附屬スル器具機械及工作物ノ設置ニ要スル費用ニ對シ之ヲ供給スルコト

既設事業ニ對スル援助資金ノ供給ハ特ニ前項諸施設ヲ擴張スル場合其ノ擴張部分ニ要スル費用ニ對シテノミ之ヲ行フ

三、資金援助額ハ前項ノ設備所要額ノ半額以内ニシテ一ケ所當大體參千圓以下トシ所要經費ノ殘餘ハ經營主體ノ負擔トス

四、援助ヲ受クベキ團體ハ其ノ事業計畫（收支見込ヲ含ム）經費豫算額、運轉資金見込額及其ノ融通方法等ヲ記載ノ上内務部長宛申込書ヲ提出スルコト

五、資金ノ援助ヲ受クベキ事業ハ左ノ要項ニ依リ選擇スルコト

農村副業的加工業選擇要項

(一)、當該地方又ハ其ノ近傍ニ相當多量ニ生産セラレ容易ニ得ラルル農産水産物等ヲ原料トスル加工業ナルコト

(二)、技術ガ餘リニ精巧ヲ極メ農山漁家ノ加工業トシテ不可能ナルガ如キモノヲ避クルコト

(三)、販路ノ見込充分ナルモノナルカ又ハ自村若クハ其ノ附近ノ需要品ナルコト

販賣ヲ目的トスルモノニ在リテハ可成將來販路擴張シ其ノ地方ノ特産物トナル見込アルモノナルコト

(四)、附近ニ於ケル既存ノ中小工業ト成ル可ク衝突スル虞ナキモノナルコト

(五)、一村内相當多數ノ農（山漁）家又ハ數ケ村ノ（農山）漁家ガ克ク協力一致シテ共同ニ行フ加工業ニシテ農（山漁）家ノ多數ガ利益ヲ受ケ之ニ依リ當該地方ガ經濟的ニ更生セラルルガ如キモノタルヲ要シ一個人又ハ少數ノ人々ノ利益ノ爲ニ行フ加工業ハ之ヲ避クルコト

訂（静岡令二二五號）

●農村ニ於ケル電氣利用ニ關聯スル副業及工業ニ關スル件

農第一五九八號經濟部長通牒（昭和十年六月二十二日）

市町村長宛

農村振興ノ爲ニ施設セラルヽ共同作業場等ニシテ電化スルヲ必要トスルモノニシテ之ガ配電設備ニ對スル工事費負擔ノ關係等ノ爲未ダ配電開始ヲ見ルニ至ラザルモノニ對シテハ特ニ何等カノ方法ヲ講ジ以テ電氣普及ニ遺憾ナカラシメ度趣ヲ以テ東京遞信局長ヨリ照會ノ次第モ有之候條貴管内ニ於ケル農村副業及農村工業ニ關スル共同作業場等ニシテ該當事實有之場合ハ左記事項ニ付資料御送附相成度候

記

一、共同作業場施設者名

二、共同作業場設置地（既設及設置豫定地）

三、共同作業場ニ於ケル仕事ノ種別

四、共同作業場ニ設置スル機械器具及其ノ容量

五、共同作業場ニ必要ナル原動力ノ種類

六、原動力トシテ電氣ヲ使用シ得ザルモノハ其ノ理由、他種原動力ノ種別及容量

七、電氣ヲ使用スルモノハ單相、三相ノ別

八、電氣使用季節及時間

九、電氣事業者ニ交渉セルモ料金其ノ他供給條件ノ爲ニ電化シ得ザリシモノハ其ノ理由等

●靜岡縣副業奬勵委員會設置規程

第十編　産業　第十章　雜則

訂（静岡令二三五號）

靜岡縣訓令乙第五三號（昭和三年三月七日）

沿革　昭和一〇年五月訓令乙第一八三號改正

知事官房　總務部　經濟部　農事試驗場　工業試驗場　水產試驗場　蠶業試驗場　種畜場

靜岡縣副業奬勵委員會設置規程左ノ通定ム

第一條　副業ノ助長奬勵ニ關スル事項ヲ調査審議スル爲メ副業奬勵委員會ヲ置ク

第二條　副業奬勵委員會ニ於テ調査審議スヘキ事項概目左ノ如シ

一、副業ニ利用スヘキ餘剩勞力ニ關スル事項

二、副業ヲ奬勵スヘキ區域竝指導奬勵及助成方法其ノ他實施計劃ニ關スル事項

三、副業ノ現況調査ニ關スル事項

四、副業ノ共同施設方法ニ關スル事項

五、副業生産品ノ販賣斡旋其ノ他需給ニ關スル事項

六、奬勵シタル副業ノ成績考査ニ關スル事項

七、其ノ他副業助長發展ニ資スヘキ事項

第三條　副業奬勵委員會ハ委員長及委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條　委員長ハ經濟部長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ關係官吏々員其ノ他ノ者ニ付知事之ヲ任命又ハ嘱託ス

第五條　副業奬勵委員會ニ幹事及書記若干名ヲ置キ知事之ヲ命ス

幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

書記ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

●副業組合規約準則

農第二五〇八號（大正十五年五月二十五日）

【郡】市町村長

五月七日本縣令第四十七號ヲ以テ公布相成候副業奬勵費交付規程第二條第一號ニ關スル副業組合規約準則左記ノ通制定相成候條該組合設置ニ對シテハ本準則ニ依リ規約作製相成樣關係團體ニ對シ御示達相成度

副業組合規約準則

何々副業組合規約

第一條　本組合ハ何々組合（何々聯合會）ト稱シ副業品ノ生産增加竝品質ノ改良統一及販賣方法ノ改善ヲ圖リ相互利益ヲ增進スルヲ目的トス

第二條　本組合ハ何町村、大字內ニ於テ第四條ニ規定セル副業ニ從事スル者ヲ以テ組織シ事務所ヲ何町村、大字何番地ニ置ク

第三條　本組合ニ於テ取扱フ副業ノ種類左ノ如シ但シ總會ノ決議ニ依リ其ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

一、何々

二、何々

第四條　第一條ノ目的ヲ達セムカ爲本組合ニ於テ施行スヘキ事業左ノ如シ

一、生產品ノ改良統一ヲ圖ルコト（檢查施行）

二、原料、材料、器具機械等ノ共同購入ヲ行フコト

三、生產品ノ共同販賣ヲ行フコト

四、共同作業場ノ設置ヲ圖ルコト

五、視察員ヲ派遣シ販路ノ擴張ヲ圖ルコト

六、傳習會、講習會、講話會、競技會、展覽會、品評會ヲ開催スルコト

七、賚金ノ融通ヲ圖ルコト

八、優良ナル組合員ヲ表彰スルコト

九、其ノ他總會ニ於テ決議シタル事項

第五條　本組合ニ左ノ役員及職員ヲ置ク

組合長一名、副組合長一名、評議員若干名、事務員若干名、檢查員若干名

第六條　組合長ハ組合ヲ代表シ事務執行ノ任ニ當ル副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ之ヲ代理ス

評議員ハ組合ノ事務執行ニ關スル評議ヲ爲ス事務員、檢查員ハ組合長ノ指揮ヲ受ケ檢查又ハ庶務ニ從事ス

第七條　役員ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ選擧シ其ノ任期ハ二ケ年トス但シ再選ヲ妨ケス

職員ハ組合長之ヲ任免ス

第八條　本組合ハ毎年一回何月總會ヲ開キ左ノ事項ヲ決議スルモノトス但シ組合長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

一、經費豫算竝分賦收入方法

二、經費決算ノ承認竝事業成績報告

三、組合ノ事業計畫

四、其ノ他必要ナル事項

第九條　總會ハ組合員ノ過半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

總會ノ決議ハ出席組合員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條　本組合ノ事業年度ハ何月何日ニ始マリ何月何日ニ終ル

第十一條　本組合ノ經費ハ組合員ノ負擔トシ其ノ他補助金利益金及雜收入ヲ以テ之ニ充ツ

訂（靜岡縣令一九九號）

第十二條　本組合員カ其ノ生產物ヲ販賣シタル時ハ必ス其ノ販賣代金ノ何歩ヲ貯金スルモノトス

第十三條　年度內中途ニシテ脫退スル者ニ對シテハ其ノ年度ノ經費ヲ負擔セシムルモノトス

第十四條　組合員ニシテ本規約ニ違背シタルトキハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ除名ス

前項ニヨリ除名セラレタルモノハ本組合財產ノ分配ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條　本組合ニ加入セムトスルモノ又ハ脫退セムトスルモノハ役員會ノ承認ヲ要ス

第十六條　本規約ヲ變更セムトスルトキ又ハ本組合ヲ解散セムトスルトキハ總會ニ於テ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

第十七條　本組合ノ業務施行ニ關スル細則ハ別ニ評議員ニ諮リ組合長之ヲ定ム

副業組合ノ備付簿冊

一、組合員名簿

二、役員名簿

三、金錢出納簿

四、販賣簿

五、販賣品受拂簿

六、購買簿

七、購買品受拂簿

八、規約及諸規程綴

九、總會及豫算決算ニ關スル書類綴

一〇、往復文書類綴

訂（靜岡令二二三號）

●製炭設備奬勵金交付申請ニ關スル件

山第九八七號內務部長通牒（昭和七年十二月二十二日）

市町村長宛

標記ノ件ニ關シテハ夫々御配意中ノコトト被存候處右申請書ハ地籍主義ニ則リ築竈所在地市役所町村役場ヲ經由シ該當市町村長ニ於テ實地調查ヲ遂ケタル調書添附ノ上提出相成度

追而隣縣關係ニ於テモ右同樣地籍主義ニ則リ村役場ヲ經由シ當該縣知事ニ提出相成度

●瓦斯發生爐設置奬勵金交付ニ關スル件

商第九二〇號内務部長通牒（昭和九年七月十九日）

市町村長宛

近時激甚シツツアル石油ノ需要ヲ充スタメ揮發油ノ代用品トシテ木炭ヲ原料トスル發生爐瓦斯ヲ使用スルハ揮發油ノ消費節約ヲ圖ル上ニ效果尠カラサルモノト認メラルルニ依リ自動車又ハ「ガソリンカー」ニ瓦斯發生爐ノ設置ヲ奬勵スルタメ瓦斯發生爐設置奬勵金交付規則ニ依リ奬勵金ヲ交付スルコトト相成候旨商工省ヨリ通牒有之候條貴部内關係ノ向ニ右周知方可然御手配相成度依ツテ該規則ニ依リ奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル者アルトキハ左記要綱御含ミノ上申請書二通作成提出（縣經由）セシメラレ度

追テ本年度ノ補助金豫算總額ハ九萬圓ニ有之候條爲念申添候

記

〔參照〕

○瓦斯發生爐設置奬勵金交付規則

昭和九年六月八日
商工省令第十二號

瓦斯發生爐設置奬勵金交付規則左ノ通定ム

瓦斯發生爐設置奬勵金交付規則

第一條　商工大臣ハ瓦斯發生爐ノ設置ヲ奬勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

前項ノ瓦斯發生爐ノ型式及種類ハ別ニ定ムル試驗ニ合格シタルモノニ限ル

第二條　奬勵金ハ瓦斯發生爐（之ト共ニ設置スル附屬裝置ヲ含ム以下同ジ）ヲ自動車、瓦斯機關車又ハ瓦斯動車ニ設置スル場合ニ自動車、瓦斯機關車又ハ瓦斯動車ノ所有者ニ對シ之ヲ交付ス

第三條　奬勵金ノ額ハ瓦斯發生爐一基ニ付其ノ設置ニ要シタル費用ノ半額以内ニシテ三百圓ヲ限度トス

第四條　奬勵金ノ交付ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ左ニ揭グル事項ヲ記載シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　瓦斯發生爐ヲ設置スル車輛ノ種類及用途
二　瓦斯發生爐ノ型式及種類竝ニ其ノ製作者ノ氏名及住所
三　瓦斯發生爐ノ取附方法
四　瓦斯發生爐ニ使用スル燃料ノ種類
五　瓦斯發生爐設置ニ要スル費用ノ豫算及交付ヲ受ケントスル奬勵金ノ額

第五條　奬勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者瓦斯發生爐ヲ設置シタルトキハ商工大臣ニ奬勵金交付ノ申請書ヲ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ瓦斯發生爐ノ設置ニ要シタル費用ニ關スル精算書及瓦斯機關車又ハ瓦斯動車ニ付テハ監督官廳、自動車ニ付テハ主タル使用地ヲ管轄スル地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ノ瓦斯發生爐ヲ設置シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第六條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二年間商工大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ奬勵金ノ交付ヲ受ケテ設置シタル瓦斯發生爐ヲ讓渡シ、取外シ若ハ其ノ使用ヲ廢止シ又ハ之ヲ設置シタル車輛ヲ讓渡スルコトヲ得

前項ノ讓渡ノ許可ノ申請ハ讓受人ト連署ノ上之ヲ爲スベシ

第七條　商工大臣ハ必要アリト認ムルトキハ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ瓦斯發生爐ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第八條　奬勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商工大臣ハ奬勵金交付ノ指令ヲ取消シ、奬勵金ノ金額ヲ減少シ又ハ既ニ交付シタル奬勵金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

一　本則又ハ本則ニ基キ命ジタル事項ニ違反シタルトキ
二　奬勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
三　詐欺其ノ他不正ノ行爲アリタルトキ
四　設置費ノ決算額ガ豫算額ト著シク相違スルトキ

第九條　本則ニ依リ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ瓦斯機關車又ハ瓦斯動車ニ付テハ鐵道又ハ軌道ニ在リテハ其ノ起點所在地）ヲ管轄スル地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ヲ經由スベシ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和九年六月八日
商工省告示第二十八號

瓦斯發生爐設置奬勵金交付規則第一條第二項ノ規定ニ依リ瓦斯發生爐性能試驗規程左ノ通定ム

瓦斯發生爐性能試驗規程

第一條　瓦斯發生爐ノ性能試驗ハ瓦斯發生爐ヲ設置シタル自動車ニ付距離約百キロメートルノ運行竝ニ消費スル燃料ノ種類及數量ニ關シ之ヲ行フ

第二條　瓦斯發生爐ノ試驗ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル願書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一　瓦斯發生爐ノ型式及種類
二　瓦斯發生爐及附屬裝置ノ構造及特徵竝ニ其ノ重量及容量
三　瓦斯發生爐ノ取付方法
四　瓦斯發生方法
五　瓦斯發生爐及附屬裝置ノ耐久性
六　瓦斯發生爐ニ於ケル安全裝置ノ有無竝ニ其ノ構造及機能
七　燃料ノ種類
八　試驗ヲ受クル際使用スル車輛ノ種類

前項第二號及第三號ニ揭グル事項ニ付テハ圖面ヲ添附スベシ

瓦斯發生爐設置奬勵要綱

一、奬勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ベキ瓦斯發生爐ハ當省ニ於テ行フ試驗ニ合格シタルモノト同一ノ型式及種類ノ瓦斯發生爐ニ限ルモノナルコト試驗ニ合格シタル瓦斯發生爐ノ型式及種類ハ試驗ヲ爲シタル後通知ノ豫定

二、瓦斯發生爐一基ノ設置ニ要シタル費用ニハ瓦斯發生爐ノ購入費、

訂（靜岡令二二三號）

訂（靜岡令二二三號）

荷造費、運搬費等ヲ含ムコト

三、奬勵金交付ノ申請書ハ奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル瓦斯發生爐ノ基數ニ應ジ提出スルコト

訂（靜岡令二二三號）

●中小商工業者運轉資金融通ニ關スル件

商第三〇五號内務部長通牒（昭和三年十一月二十二日）

市町村長宛

中小商工業者運轉資金融通ニ關スル件

中小商工業者運轉資金トシテ大藏省預金部ヨリ本縣ニ對シ興業債券引受金六拾萬七千七百五拾圓融通ノコトニ決定相成候條左記銀行ヲ通ジ左記貸付要項ニヨリ之ヲ貸付ノコトニ相成候條右御了知ノ上貴部内當業者ニ無洩御通知相成手續上萬遺憾ナキ樣御取計相成度

追テ申請書ハ直チニ御調査ノ上提出期日迄ニ御進達相成度申添候

訂（靜岡令二二三號）

記

株式會社	三十五銀行
同	靜岡銀行
同	駿河銀行
同	伊豆銀行
同	伊豆相互貯蓄銀行
同	沼津銀行
同	遠州銀行
同	濱松銀行

中小商工業者運轉資金貸付要項

一、中小商工業者運轉資金トシテ六拾萬七千七百五拾圓以內ヲ供給ス

二、償還期限ハ借入人ノ希望ニ依リ一ヶ年定期償還又ハ三ヶ年以內元金均等償還トス

三、貸付利率ハ年八分五厘以內トス

四、本資金ハ運轉資金（短期債務ノ決濟及借換資金ヲ含ム）ニ使用スルモノニ限ル

五、本資金ハ左ノ銀行ニ取扱ハシム

株式會社	三十五銀行
同	靜岡銀行
同	駿河銀行
同	伊豆銀行
同	伊豆相互貯蓄銀行
同	沼津銀行

六、本資金ハ直接中小商工業者ニ貸付ス

七、一人ノ借入限度ハ壹千圓トス

但シ特別ノ事情アル場合ハ參千圓迄擴張スルコトヲ得

八、申請書ハ第一號樣式ニ依リ昭和三年十二月十日迄ニ市町村役場ヲ經由シ提出スヘシ

第七項但書ノ事情アルモノハ之カ理由書ヲ添付ノコト

九、申請書ニハ第二號樣式ノ調書ヲ添付ノコト

但シ無擔保借入希望者ニ在リテハ甲號樣式、擔保付借入希望者ニ在リテハ乙號樣式ニ依ルコト

一〇、申請書ハ二通ヲ要ス（添付書類モ二通添付ノコト）

第一號樣式

中小商工業者運轉資金借入申請書

中小商工業者運轉資金左記ノ通リ借入致度ニ付御貸付相成度別紙調書相添此段及申請候也

記

一、借入金額

一、償還期限

一、借入金ノ用途

一、取扱希望銀行

一、擔保又ハ無擔保ノ區別

一、償還財源

訂（靜岡令二二三號）

一、差出ノ抵當物ニテ借入アレハ借入先、借入金高利率ヲモ記入スルコト

一、抵當地一段歩又ハ一坪當買價額

年　月　日　　住所　申請人　何　某　生年月日

住所

第二號樣式甲號ノ一

證明願

借主又ハ保證人ノ別	氏名生年月日	戶主非戶主別	職業	納稅額	所有土地 地目	段別	地價	所有建物 種類	建坪	時價
				所得稅 國稅收益稅 市町村稅戶數割賦課額	田 畑 宅地 同 同 同					

右御證明被成下度此段相願候也

年　月　日

市町村長宛

住所

氏名

右證明候也

年　月　日

市町村長

備考　一、保證人分モ併記スルコト

訂（靜岡令一五一號）

保證人　何　某　生年月日

知事宛

備考　一、借入金ノ用途欄ニハ舊債借替ノ場合ハ舊債金ノ用途ヲ記入スルコト

一、抵當地賣買價額欄ニハ大字、地目、等位毎ニ記載スルコト

一、無擔保借入人ノミ本書ヲ添付スルコト

第二號様式甲號ノ二

營業狀態調

（氏名）

生産品又ハ販賣品名	生産數量又ハ販賣數量	同上價額	職工數又ハ使用人數	從業年數

備考　一、生産數量及販賣數量ハ最近一ヶ年分ヲ記載スルコト

一、本書ハ借主ノ分ノミ記載添付ノコト

第二號様式乙號ノ一

抵當物明細表　（建物ノ部）

所在地番	番號	種類構造 附屬建物	用途	坪數 平坪	坪數 二階坪	坪數 三階坪	建築年月 買入年月	保險金高	家賃月額	建築原價又ハ買入原價
				坪	坪	坪			圓	圓

訂〔靜岡令一五一號〕

計		棟								

備考　一、建物抵當物ハ市街地及之ニ準スヘキ場所ニシテ相當價値アルモノニ限ル

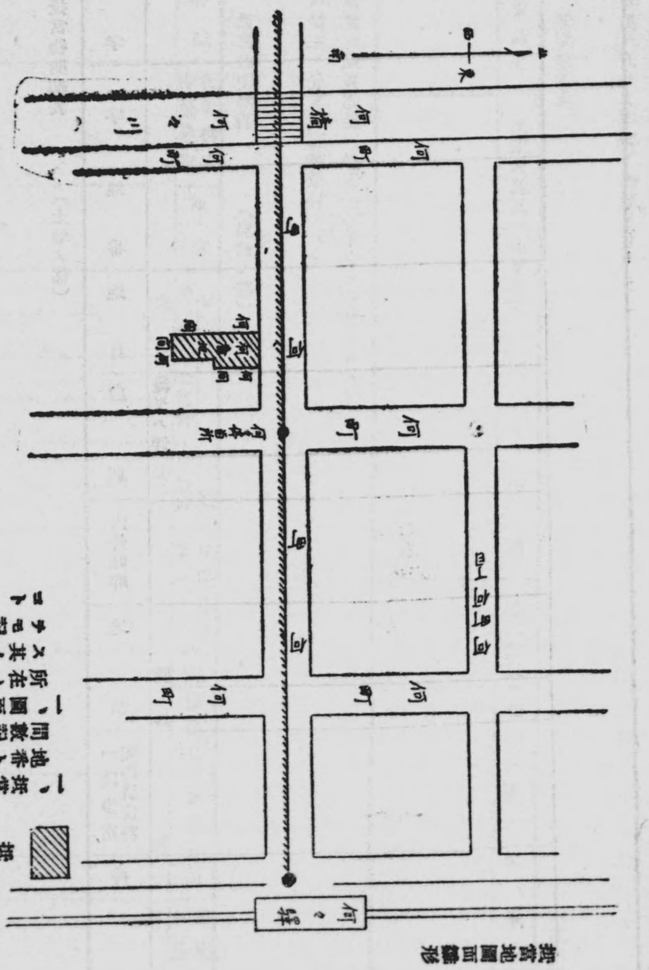
二、建物ノ略圖ヲ添附ノコト

第二號様式乙號ノ二

抵當物明細表　（土地ノ部）

郡市町村	大字	字	地番	地目	段別	段又ハ坪	內外畦畔	地價	圓	錢	一段歩當契約賃貸料	持主
地目別計												

訂〔靜岡令一五一號〕



營業狀態調

生産品又ハ販賣品名	生産數量又ハ販賣數量	同上價額	職工數又ハ使用人數	從業年數

備考　一、生産數量及販賣數量ハ最近一ヶ年分ヲ記載スルコト
一、本書ハ借主ノ分ノミ

訂（静岡令二四〇號）

（氏名）

●政府補償産業組合金融疎通資金融通ニ關スル件

農第四四九三號内務部長通牒（昭和七年十一月十五日）

市町村長宛

本年九月七日公布ニ係ル産業組合中央金庫特別融通及損失補償法ハ十月一日ヨリ施行相成候ニ付テハ政府補償産業組合金融疎通資金金貳千五百萬圓（金壹億圓ノ一部ヲ）左記ノ方法及條件ニ依リ産業組合中央金庫經由融通スルコトニ相成候ニ付貴部内信用組合及信用組合聯合會ニ對シ右周知方可然御取計相成度

記

政府補償産業組合金融疎通資金融通方法及條件

一、本資金ハ産業組合中央金庫特別融通及損失補償法ニ依リ政府ノ損失補償ノ下ニ行ハルル産業組合金融資金トシテ融通スルモノトス

二、本資金ハ産業組合中央金庫カ其ノ所屬信用組合又ハ聯合會ニ對シ其ノ固定セル債權ヲ資金化シテ金融ノ疎通ヲ圖ル爲當該債權ヲ擔保トスル貸付ニ之ヲ使用スルモノトス

三、産業組合中央金庫ノ貸付利率ハ年五分九厘トス

四、本資金ノ償還期限ハ昭和七年十月一日ヨリ十五箇年以内（五箇年以内ノ据置期間ヲ含ム）トス

五、本資金ノ元金及利子ハ毎年二回ニ分チ之ヲ支拂フモノトス

六、本資金ノ融通ニ付テハ特ニ貸付ノ敏速ヲ期スル爲他ノ地方資金ノ如ク主務大臣又ハ地方長官ニ於テ資金供給決定ノ手續ヲ爲スコト無ク産業組合中央金庫ハ申込ヲ受ケ適宜貸付ヲ爲スモノトス

●信用組合ノ貯金ト無盡ニ關スル件

産第一六九二號經濟部長通牒（昭和十年十一月二日）

市町村長宛

信用組合ノ業務トシテ組合員中ヨリ一定ノ貯金者ヲ集メ組又ハ團ヲ組織

シ豫メ一定セル掛金ヲ拂込マシメ且拂戻金ヲモ一定シ置キ一口毎ニ抽籤ノ方法ニ依リ給付ヲ爲スハ無盡業法第一條ニ所謂無盡ニ該當スルモノニ有之信用組合カ斯ル業務ノ經營ヲ爲スコトハ不適當ト被認難ヲ以テ主務省ヨリ通牒越ノ次第モ有之候條管內信用組合ニ此ノ旨周知相成度

●開墾地移住紹介規程

靜岡縣告示第九十六號（大正十一年三月十七日）

開墾地移住紹介規程左ノ通定ム

開墾地移住紹介規程

第一條　移住者ヲ要スル開墾地又ハ開墾地ヘノ移住希望者ニシテ移住紹介ヲ受ケムトスル者ハ別記樣式ノ申込書ニ左記區分ニ從ヒ要項ヲ記載シ知事ニ差出スヘシ

甲移住者ヲ要スル開墾地

一、開墾地ノ所在

二、事業者住所氏名

三、開墾地ノ概況

四、移住者募集戶數

五、參住時期

六、移住者ノ待遇及保護施設

七、移住者ニ對スル希望條件

乙開墾地ヘノ移住希望者

一、氏名及年齡（移住スル家族ノ男女別年齡ヲ附記スルコト）

二、原籍及現住所

三、從來ノ職業

四、事業地及事業者ニ對スル希望條件

第二條　前條申込ノ要項ヲ變更シ又ハ申込ヲ取消サムトスルトキハ其ノ旨知事ニ屆出ツヘシ

第三條　移住紹介ノ申込アリタルトキハ之ヲ農商務省ニ報告シ農商務省ヨリ開墾地ヘノ移住希望者又ハ移住ヲ要スル開墾地ニ付通知アリタルトキハ之ヲ當該申込者ニ通知シ必要アリト認ムルトキハ縣公報ヲ以テ公示スルモノトス

第四條　移住紹介ヲ申込ミタル開墾事業者ハ豫定戶數ノ移住者ノ募集ヲ了スルニ至ル迄其ノ開墾地ニ移住シタル戶數（府縣內ヨリノモノト府縣外ヨリノモノトニ分チ）ヲ毎年六月末日及十二月末日現在ニ依リ各翌月十日迄ニ知事ニ報告スヘシ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樣式

開墾地移住紹介申込書

開墾地移住紹介規程ニ依リ左記事項御紹介相成度此段申込候也

年　月　日

住所　氏名　印

知事宛

記

●北海道自作農移住補助出願ニ關スル件

訂（靜岡令二四〇號）

社第六五九號學務部長通牒（昭和九年九月十一日）

市町村長宛

標記ノ件ニ關シ爾今左記樣式ニ依ル健康診斷書ヲ徵スルコトト相成候趣北海道廳長官ヨリ申越候ニ付御了知ノ上可然御取扱相成度尙健康診斷書ヲ徵スルニ困難ナル事情アルモノニ付テハ診斷書ノ添附ヲ略シ健康狀態ノ可及的詳細ナル貴職ノ調書ヲ添附相成樣致度

北海道自作農移住補助出願者竝移住家族健康診斷書

出願人トノ續柄	氏名	年齡	重患トラホーム	兩眼失明	精神異狀	結核性諸症及癩	畸形	農業勞働ニ堪ヘ得ルト認ムルヤ
出願人								
妻								

右之通相違無之候也

昭和　年　月　日

住所

醫師　㊞

北海道自作農移住者健康診斷書ノ件

首題ノ件ニ關シ左ノ通リ同廳ヨリ依賴越アリタリ爾今之レガ取扱ヒニ當リテハ該主旨ニヨリ處理セラレ度

記

訂（靜岡令二二五號）

追テ縣醫師會ニ於テハ別記ノ通リ同會報（第八十九號昭和九年八月二十日）ヲ以テ北海道廳長官ヨリ依賴ノ趣旨ニ依リ處理方ノ徹底ヲ取計ヒ居リ候條爲念申添候

注意（一、滿十歲未滿ノ者及移住セザルモノハ記載ニ及バズ續柄ノ欄妻以下ハ父長男二女等受診者ヲ列記スルコト

昭和九年度自作農移住者募集ニ關スル件
（昭和九年七月二十七日戊殖第三、〇〇〇號）
（北海道長官發縣醫師會長宛）

本道ニ於テハ昭和二年度ニ於テ北海道第二期拓殖計畫ヲ樹立シ爾來毎年自作農移住者約千戸ヲ募集シ來リ候處既往ノ實績ニ徴シ移住者ノ健康狀態力移住後ノ成績ニ重大ナル影響ヲ有シ本道拓殖ノ行程ニ支障アルハ勿論折角ノ雄圖空シク中途ニ於テ挫折シ延ヒテ其ノ一家ノ將來ヲ誤ラシムルコトニ可相成ニ付今回別紙樣式ノ健康診斷書ヲ移住出願者ヨリ徴スルコトニ致候就テハ診斷書發行手數料ハ貴會ニ於ケル規定モ可有之ト思料候モ之等出願者ハ衰力充分ナラサルモノ勘カラサルノミナラス出願手續上僅少ニテモ失費ヲ要スルトキハ自然其ノ出願ヲ見合スカ如キコト可有之斯クテハ本道移住奬勵上遺憾トスル儀ニ有之候條特ニ此ノ點御考慮ノ上格別ノ御取扱煩度此段御依頼ヲ乘得貴意候

●北海道移住者世話指導ニ關スル件

社第九九號學務部長通牒（昭和十年二月二日）

市町村長宛

北海道移住者ニシテ移住者汽車汽船運賃割引券携帶ノモノニ對シテハ從來青森函館兩移民取扱事務所ニ於テ各別ニ之ヲ證査檢印ノ處今回之ヲ改メ事務所々在ノ驛構内若クハ青函連絡船内ニ於テ一回之ヲ證査左記ノ檢印ヲ押捺スルコトニ相成候趣北海道廳長官ヨリ通知有之候就テハ該檢印ハ土地處分ノ重要資料ト相成次第ニツキ農業移住者ニ對シテハ渡道ノ際必ズ檢印ヲ求ムル樣御配慮相煩度及依頼候也

記

昭和　年　月　日青函通過
北海道廳調査員㊞

●朝鮮移住民汽車汽船割引證ニ關スル件

産農第一三二七號（大正十四年五月二十九日）

【郡】市役所　町村役場　【警察署】【警察分署】

東洋拓殖株式會社取扱ニ係ル朝鮮移住民ノ汽車汽船割引證下付方ニ付テハ鐵道省告示第二五三號（大正十三年十二月二十七日官報參照）ヲ以テ國有鐵道旅客及荷物運送規則改正ノ結果割引證ハ爾今鐵道省ニ於テノミ作成シ内閣拓殖局ヲ經テ當該市區町村役場又ハ警察署ヨリ本人ニ交付セラルル事ニ相成候ニ付左記事項御了知ノ上可然御取扱相成度

追而右割引證ハ從前ノ如ク便宜東洋拓殖株式會社ニ下付シ同社ヨリ其ノ移住承認書ヲ添ヘ直接之ヲ交付セシメ移住民各自ノ居住ノ市區町村長又ハ警察署長ノ證明ヲ受ケシムルコトニ相成候條併テ御了知相成度

記

一、三月三十一日以前ニ發行シタル舊割引證ハ其ノ有效期間内ト雖モ發行ノ日ヨリ六十日間（割引證裏面注意事項第一〇號參照）ハ四月一日以後ニ於テモ之ヲ有效トシテ取扱フコト

訂（靜岡令二三一號）

●樺太農業移民ニ對スル證明書交付方ノ件

社第一〇三六號學務部長通牒（大正十五年八月十日）

市町村長宛

今般樺太廳ニ於テハ同島拓殖ノ速進ヲ期スルタメ今後一層堅實ナル移民ヲ招徠シ併セテ開拓助成ノ施設ヲ行フ方針ヲ樹立セラレ本年度ヨリ新移民證明書樣式

移住證明書

右者左記調書ノ通リニシテ農業目的ヲ以テ樺太ニ移住スルコトヲ證明ス

大正　年　月　日

本籍
住所
職業　氏名　生年月日

調書

一、移住スヘキ家族ノ氏名及年齢	誰	何歳	妻　何歳　長男　何歳
二、移住家族中農事ノ勞働ニ從事シ得ルモノ	男　人 女　人	計　人	
三、農事ニ經歴ノ有無	大正　年　月ヨリ同年　月マテ小作又ハ自作農業何町何段歩		
四、現居住地ニ在住ノ年月	大正　年　月ヨリ現在		

何　市（區　町　村）長殿

訂（靜岡令二三一號）

五、	樺太ニ渡航シタルコトアリヤ有ルトキハ其ノ年月居住地名及當時ノ職業竝ニ退島ノ事由
六、	其ノ他參考トナルヘキ事項

移住奬勵補助規則

（大正十五年六月樺太廳令第十九號）

第一條　樺太ニ新ニ移住シ樺太廳長官ノ指定シタル國有未開地ノ貸付ヲ受ケ農業ヲ營ム者ニハ本令ニ依リ補助ヲ爲スコトヲ得但樺太ニ上陸シタル翌月ヨリ六月以内ニ本籍地又ハ寄留地町村長ノ移住證明書ヲ添付シ指定地ノ貸付願ヲ提出シタルコトヲ要ス

第二條　前條ノ指定地ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條　補助ハ第一期及第二期ニ分ツ

第一期補助ヲ受クル者ハ指定地ノ貸付ヲ受ケ該地域内ニ住居ヲ構ヘタルコトヲ要ス

第二期補助ヲ受クル者ハ指定地ノ貸付ヲ受ケタル翌年七月末日迄ニ貸付地ヲ一町歩以上開墾作付シタルコトヲ要ス

第四條　單身移住者ニハ第一期補助ヲナサズ但シ前條第三項ノ期間内ニ家族ヲ呼寄セタルトキハ第一期補助額相當ノ金額ヲ併セテ補助スルコトアルヘシ

第五條　第三條第三項ノ開墾作付地ニハ直徑五寸以下ノ根株ヲ殘存スルコトヲ得ス

前項、燒畊、坪畊又ハ耕作面積ノ三割以上ノ牧草ノ栽培地ハ開墾作付地ニ通算セス

第六條　補助ヲ受ケムトスル者ハ別記書式ノ願書ヲ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太支廳出張所長ニ提出シ第三條乃至第五條ノ實踐ニ付キ檢査ヲ受クヘシ

第七條　補助金額ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム

第一期補助　金百五拾圓以内

第二期補助　金百五拾圓以内

土地ノ狀況及開墾ノ難易ニ依リ必要アリト認メタルトキハ各期ノ補助額ヲ增減スルコトアルヘシ但シ兩期分ヲ合算シテ四百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條　補助ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ニ依ル補助ヲ取消シ又ハ補助金ノ全部若クハ一部ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

一、土地貸付ノ契約ヲ解除セラレタルトキ

二、許可ヲ受ケスシテ貸付地ノ借地權ヲ讓渡シタルトキ

三、自己ノ便宜ニ依リ貸付地ヲ返還シタルトキ

四、本令及補助指令ニ定メタル條件ニ違背シタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス大正八年四月樺太廳令第八號移住奬勵補助規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ本令施行前移住シタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

訂（靜岡令一二九號）

書式

移住奬勵補助願

一、第一期補助（又ハ第二期補助）

右ハ移住奬勵補助ノ規則ニ依リ相當御補助相成度此段相願候也

大正　年　月　日

本籍

住所

氏名㊞

樺太廳長官殿

記

一、樺太ニ上陸シタル年月日及地名

（大正　年　月　日　上陸）

二、貸付地及許可年月日番號

（郡町村大字　字　番地未開地　坪大正　年　月　日第　號許可）

三、開墾作付シタル段別

（町　段　歩）

●北海道樺太移住者汽車汽船運賃割引證ニ關スル件

訂（靜岡令二一四號）

北海道樺太移住者汽車汽船運賃割引證ニ關スル件

市町村長經由

標記割引證ノ交付ヲ受ケントスル者ニ對シテハ爾今必ズ左記事項ヲ記載セシメ且ツ移住者ニ相違ナキ旨實印ノ奥書ヲ爲シ御進達相成度

記

一、移住者ノ住所職業氏名年齡

一、移住先

一、移住ノ目的

一、信頼者ノ住所氏名

一、發著驛（港）

註第五二二號學務部長通牒（昭和二年四月十九日）

●開墾地移住民ニ對スル汽車、電車、汽船ノ特別取扱方ニ關スル件

耕第一〇六八號内務部長通牒（昭和八年十二月十九日）

市町村長宛

標記ノ件今般左記ノ通改正相成候ニ付テハ此ノ機會ニ於テ普ク當業者ヘ周知方御取計相成度

記

開墾地移住民ニ對スル汽車、電車、自動車、汽船ノ特別取扱方（大正十一年二月二十四日農商務省告示第五十一號）「改正」大正十一年十二月二十六日同第三百八十二號、同十三年十一月十五日同第二百四十七號、同十四年三月十七日同第五十二號、昭和五年三月十日農林省告示第九十八號、同八年十月三十日同第三百九十五號

第一條　本土、四國、九州及沖繩縣ニ於ケル農業ヲ目的トスル開墾地ニ移住スル者ニシテ汽車電車自動車汽船ノ特別取扱ヲ受クムトスル者ハ居住地ヲ管轄スル北海道廳、同支廳、府縣廳、府縣支廳又ハ市區町村役場ニ申出テ割引證ノ交付ヲ受クヘシ居住地ニ於テ割引證ノ交付ヲ受ケサル者ハ旅行先ノ當該官公署ニ其ノ交付ヲ請フコトヲ得

第二條　前條ノ割引證ヲ携帶スル者ハ移住ノ順路ニ依ル往路ニ限リ左ノ割引ヲ以テ乘車乘船スルコトヲ得

一　鐵道省所管ノ鐵道、自動車、汽船竝之ト連帶運輸ノ取扱ヲ爲ス地方鐵道、軌道、自動車又ハ汽船　五割引

二　其ノ他ノ鐵道、軌道又ハ汽船

釜石鑛山會社ノ鐵道	五割引	
金華山軌道株式會社ノ軌道	同	
松島電車株式會社ノ鐵道	同	
王子電氣軌道株式會社ノ軌道	同	
城東電氣軌道株式會社ノ軌道	同	
京王電氣軌道株式會社ノ軌道	同	
玉川電氣鐵道株式會社ノ軌道	同	
大雄山鐵道株式會社ノ鐵道	同	
尾小屋鐵道株式會社ノ鐵道	同	
白山電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同	
金石電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同	
山梨電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同	
各務原鐵道株式會社ノ鐵道	同	
堀之内軌道株式會社ノ軌道	同	
西遊鐵道株式會社ノ鐵道	同	
碧海電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同	
瀨戸電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同	
合同電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同	
阪神急行電鐵株式會社ノ鐵道	同	
能勢電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同	
淡路鐵道株式會社ノ鐵道	同	

訂〔静岡令二一七號〕

南和電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同	
野上電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同	
琴平電鐵株式會社ノ鐵道	同	
四國水力電氣株式會社ノ鐵道	同	
高松電氣軌道株式會社ノ軌道	同	
鹽江温泉鐵道株式會社ノ鐵道	同	
琴平參宮電鐵株式會社ノ鐵道	同	
住友別子鑛業所ノ鐵道	同	
愛媛鐵道株式會社ノ鐵道	同	
土佐電氣鐵道株式會社ノ鐵道	同	
九州電氣軌道株式會社ノ軌道	同	
鞍手軌道株式會社ノ軌道	同	
小倉鐵道株式會社ノ鐵道	同	
小倉電氣軌道株式會社ノ軌道	同	
九州鐵道株式會社ノ鐵道	同	
太宰府軌道株式會社ノ軌道	同	
南筑軌道株式會社ノ軌道	同	
南筑軌道株式會社ノ軌道	同	
大牟田電氣軌道株式會社ノ軌道	同	
肥筑軌道株式會社ノ軌道	同	
宮崎縣營ノ鐵道	同	
大隅鐵道株式會社ノ鐵道	同	
神龜縣營ノ鐵道	同	

三陸汽船株式會社ノ汽船	同	
石巻合同汽船株式會社ノ汽船	同	
日本郵船株式會社ノ汽船	同	
愛知商船株式會社ノ汽船	同	
湖東汽船株式會社ノ汽船	同	
合資會社尼崎汽船部ノ汽船	同	
大阪商船株式會社ノ汽船	同	
嶋谷汽船株式會社ノ汽船	同	
家島汽船合名會社ノ汽船	同	
阿淡連絡汽船株式會社ノ汽船	同	
日本汽船株式會社ノ汽船	同	
岡田汽船株式會社ノ汽船	同	
瀨戸内海商船株式會社ノ汽船	同	
急航汽船株式會社ノ汽船	同	
中國汽船株式會社ノ汽船	同	
廣島縣木村伊勢松ノ汽船	同	
廣島縣小西常吉ノ汽船	同	
備讃商船株式會社ノ汽船	同	
住友別子銅山會社ノ汽船	同	
宇和島運輸株式會社ノ汽船	同	
土佐商船株式會社ノ汽船	同	
藤村商船株式會社ノ汽船	同	
升金汽船部ノ汽船	同	

訂〔静岡令二一四號〕

九州炭業株式會社ノ汽船　同
對馬沿岸商船株式會社ノ汽船　同
北九州商船株式會社ノ汽船　同
九州商船株式會社ノ汽船　同
吉住汽船部ノ汽船　同
合資會社松島商店ノ汽船　同
鹿兒島郵船株式會社ノ汽船　同
鹿兒島商船株式會社ノ汽船　同
太洋商船株式會社ノ汽船　同
大島汽船株式會社ノ汽船　同
鹿兒島灣內汽船株式會社ノ汽船　同

第三條　鐵道省線及連帶線ノ各驛間ニ付テハ連絡割引乘車船券ヲ發賣ス

第四條　鐵道省線ニ於テハ移住民ノ荷物運送ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ取扱フ連帶線ニ於テモ省線ト連帶運輸ヲ爲ス場合亦同シ

一　手荷物ハ無賃制限重量ヲ超過スル分ニ對シテハ普通運賃ノ五割引トス

二　家具及農具ノ類ハ總テ貨物取扱トシテ普通運賃ノ二割引トス

第二條第二號ニ揭クル鐵道軌道又ハ汽船ニ於ケル手荷物無賃制限重量超過分及貨物ニ對スル運賃割引ハ前項ノ例ニ依ル但シ鞍手軌道株式會社ノ貨物取扱ハ五割引トス

第五條　移住民ノ荷物ニハ住所、氏名及送先驛ヲ記載シタル强靱ナル荷札ヲ附著スルノ外更ニ左ノ如ク記載シタル白布ヲ四ツ折トシ荷物ノ兩端ニ蝶形ニ結ヒ付クモノトス

七・五糎

何驛行移住民荷物何個ノ內何號

何府縣何郡何村字何行

何府縣何郡何村何字

何驛出　何　某

三十六糎

第六條　割引證ハ避クヘカラサル事故ニ依リ滅失シタル場合ニハ再交付ヲ受クルコトヲ得

割引證ヲ所持シテ乘車船シタル移住民カ移住ノ途中疾病其他已ムヲ得サル事由ニ依リ降車船シタル場合ニ於テ乘車船切符ノ通用期限ヲ經過シタルトキハ更ニ移住地迄ノ割引證ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第七條　當該官吏ニ於テ開墾地移住民ニアラスシテ開墾地移住民ノ乘車船賃割引證ヲ携帶スルモノヲ發見シタルトキハ其ノ割引證ヲ沒收ス

第八條　割引證ノ樣式左ノ如シ

訂〔靜岡令二一四號〕

表

何々移住者タルコトヲ確認シテ本證ヲ交付ス

交付官公署長印

移住者　割引證　鐵道省　三等

何々行

昭和　年　月　日

第　號

交付官公署印

住所

職

氏名

妻　年　齡　誰

父　年　齡　誰

母　年　齡　誰

長男　年　齡　誰

右何人

汽車汽船運賃割引證	自驛至驛	同	上	同	上
同	右	同	上	同	上
同	右	同	上	同	上

四・九三糎　四・九三糎　四・九三糎

三・五糎　三・五糎　三・五糎

一〇・五糎

訂〔靜岡令二一四號〕

裏

第　號	同	同	同	取扱檢印
官公署 昭和　年　月　日交付	同	同	同	線路變更人員異動ニ付書換交付ス 昭和　年　月　日何警察署
上	上	上	上	
同	同	同	同	
上	上	上	上	

注　意

一、本證ハ番號使用者職氏名年齡及發行日附ハ發行者之ヲ記入シテ一家族中移住スベキ者ニ對シ一枚（割引證切取片ノ餘分ハ之ヲ切離シ必要ノ分ノミヲ附シテ）ヲ交付スルモノトス但シ家族多數ニシテ割引證切取片ニ不足ヲ生ズルトキハ二枚以上交付スルモノトス

二、本證ハ他人ニ讓渡又ハ貸與スルコトヲ得ス

三、本證ヲ携帶スル者ハ移住者ノ爲ニ設ケラレタル特典ヲ受クルコトヲ得

四、本證ハ乘車券又ハ乘船券購求ノ際係員ニ提出シ割引證ノ切取ヲ受クベキモノトス

五、本證記載ノ事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ所在ノ官公署ニ本證ヲ提出シテ再交付ヲ受クルコトヲ得

六、移住地ニ到着シタルトキハ移住者取扱官ニ本證ヲ提出シ上陸月日及取扱官ノ記名捺印ヲ受クベキモノトス然ラザレバ未開墾地貸付其ノ他ノ特典ヲ受ケ得ザルコトアルベシ

七、官公吏ニ於テ移住者取扱上本證ノ一覽ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

八、本證記載事項ニ加除訂正ヲ受ケ若ハ移住調ヲ受ケタルトキハ其ノ都度取扱捺印ノ欄ヘ其ノ事由ヲ記載シ取扱者ノ捺印ヲ受クベキモノトス

九、本證ヲ使用セザルトキハ速ニ交付ヲ受ケタル官公署ニ返付スベキモノトス

訂（靜岡令二一四號）

十、本證記載事項ヲ訂正シタル場合ニ於テハ左ノ證明アルモノニ限リ之ヲ有效トス

（一）發行者ノ記入スヘキ事項ニ付テハ發行者ノ認印

（二）使用者ノ記入スヘキ事項ニ付テハ使用者ノ認印

十一、本證ノ有效期間ハ交付ノ日ヨリ二箇月間トス

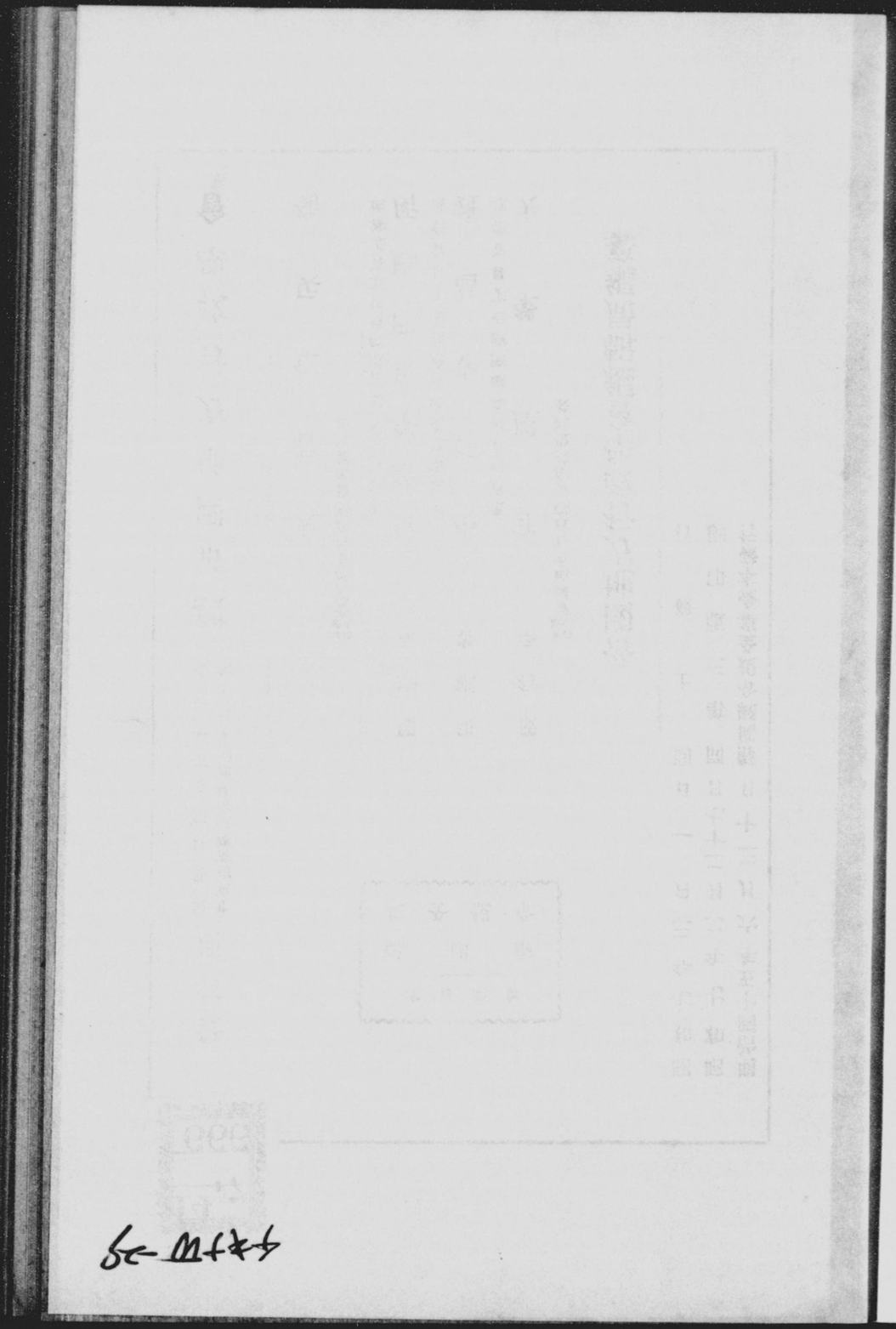
訂（靜岡令二一四號）

第十編　産業（終）

14-7
666

明治四十五年六月三十日靜岡縣令規全集臺本發行
昭和七年二月二十七日同第三版印刷
昭和七年三月一日同　上發行

帝國地方行政學會編輯局編纂

加除自在
靜岡縣令規全集

發行者　株式會社帝國地方行政學會取締役社長　守屋榮夫　東京市京橋區銀座西七丁目壹番地
印刷者　小野寺昌雄　東京市京橋區銀座西七丁目壹番地
印刷所　行政學會印刷所　東京府荏原郡荏原町戸越五百五番地
發行所　株式會社帝國地方行政學會　東京市京橋區銀座西七丁目壹番地　振替口座東京十三番　大谷仁兵衛